

## 学校法人福岡学園 平成24年度事業報告の概要

### 1. 「口腔医学の学問体系の確立・育成」について

口腔医学教育・口腔医療の確立・育成のフロントランナーとして、10年余その実践に努めてきました。健康長寿社会を支えるため大学改革に取り組む本学の意図を社会に広めるとともに、学生・教職員と歯科医師の意識改革や社会・国民の歯学・歯科に対するイメージの変革を期待して、平成25年4月から福岡歯科大学の学部・学科の名称を「口腔歯学部・口腔歯学科」に変更することを決定し、文部科学省に届け出て承認を受けました。

また、文部科学省選定の平成20年度戦略的大学連携支援事業『口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考』に関しては、連携大学間でのTV配信授業「医歯学連携演習」等の口腔医学教育の充実に向けた新たな口腔医学教育カリキュラムの実施、基礎医学（解剖学）のモデルカリキュラム作成等を行いました。

### 2. 教育の改善・充実等について

- (1) 文部科学省選定の大学教育改革 GP（優れた取り組みの助成事業）として、大学では「臨地体験と就業情報通信システム構築による歯学生の就業支援強化」（助成期間：平成21～23年度）を継続実施しました。短大では「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」を新たに開始しました。また、平成21・22年度に実施した『大学教育・学生支援推進事業』就職支援推進プログラムが取組優秀校に選定されました。
- (2) 大学においては、臨床実習充実のための「患者型ロボットを用いた救急時対応口腔医学実技教育システムの構築」、教育現状の改善策として「新たな進級制度及び試験制度の策定」、主体的な学びを支援する「e-learningシステムの充実」等を実施しました。
- (3) 大学院においては、大学院充実 PT において医科と連携した歯科治療の実践について検討し、口腔医学に沿って総合医学基本テーマを充実させました。
- (4) 短大においては、口腔介護教育の充実と質の保証のため、独自の認定資格として、口腔介護推進歯科衛生士、口腔機能向上推進歯科衛生士、口腔ケア支援介護福祉士を認定する資格制度を開始し、専門分野のエキスパート養成に努めました。
- (5) 教員の教育能力および教育の質等の向上について、大学では1) 学生支援の充実、2) 教員の資質向上、3) 大学院及び研究の活性化に関する FD を実施、短大では毎月1回の FD 講演会、毎週1回の合同抄読会、その他3つの特別講演会を開催しました。
- (6) 「第106回歯科医師国家試験」は、既卒者を含めた総合合格率が69.5%で私立歯科大学中8位でした。また、短大の「第22回歯科衛生士国家試験」は受験者88名のうち87名が合格しました。

### 3. 研究の活性化について

- (1) 文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に選定された3つの事業を中心として、先端的研究を推進しました。
  - ① 先端科学研究センターでの研究「疾患の抑制におけるゲノム安定性と環境ストレスの制御」は、5年計画の最終年度に当たり、研究経費を重点配分し研究推進に努めました。なお、これまでの研究成果を報告書として取り纏めて文部科学省に提出、高い評価を受けました。
  - ② 再生医学研究センターの「生体内環境を調和する硬組織再建システム」に関する研究については、5月に研究成果報告会、平成25年1月にシンポジウムを開催しました。
  - ③ 老化制御研究センターを新設し、5年計画の研究「老化の抑制と疾患の制御における環境ストレスとゲノムの応答」を開始しました。

(2) 国際交流協定校（ブリティッシュコロンビア大学、慶熙大學校、ヤンゴン歯科大学）から講師を招いて、11月に口腔医学国際シンポジウムを開催しました。

#### 4. 学生の支援等について

- (1) 学生一人ひとりの指導状況を把握するための「学生ポートフォリオの作成」、修学上の問題等の早期解決に向けた「多様な学生に対応した個別指導」、また、学習環境整備改善の一環として「部室等トイレのウォシュレット化」等を実施しました。
- (2) 経費の根幹である学生募集については、大学・短大ともに効率的・効果的な高校訪問や九州地区の進学相談会に積極的に参加するとともに、大学では学生の経済的負担を軽減するために、平成25年度入学生より学生納付金を6年間総額450万円減額しました。
- (3) 平成25年度入学者数は、学部99名、短大歯科衛生学科98名・保健福祉学科33名となりました。

#### 5. 社会との連携・貢献について

- (1) 医科歯科総合病院では、歯科診療ユニットを全面的に最新式に更新するとともに、小児科および整形外科の平成25年4月開設に向けて整備を完了し、地域医療センターとしての充実に努めました。なお、外来患者数は1日平均577.8人で前年度比0.5%減、入院患者数は26.7人で7.4%減となりましたが、収入については微増しました。
- (2) 新設の口腔医療センターでは、同窓生や開業歯科医師等を対象とした卒後あるいは生涯研修やセミナー等を開催し、口腔医療を実践できる人材の育成と最新の医療情報の発信に努めました。なお、年間患者総数は17,311人、1日平均患者数は64.4人となりました。
- (3) 介護老人保健施設は、開所10周年を迎え、居宅介護支援事業所や地元公民館等の協力を得るなど利用者拡大に努めましたが、前年度比で入所者は2.1%減、通所者は9.5%減となりました。また、超高齢者社会到来に向けて、新特別養護老人ホーム建設計画を進めています。
- (4) 大学間連携では、「西部地区五大学連携懇話会（九州大学、福岡大学、西南学院大学、中村学園大学）」等の多様な連携関係を構築し、教育研究・地域との交流等について様々な取り組みを行いました。また、公開講座等を通して、研究成果等の地域社会への還元にも努めました。
- (5) 国際交流では、大学はブリティッシュコロンビア大学歯学部、上海交通大学口腔医学院、慶熙大學校歯科大学、ヤンゴン歯科大学と学生交流・学術交流を実施しました。また、新たに中国医科大学口腔医学院と姉妹校協定を締結しました。短大は、諸事情により平成24年度は東釜山大学訪問を中止しました。

#### 5. 組織運営について

- (1) 事務局活性化に向けて、平成25年度から管理職任期制の導入を決定しました。
- (2) 外部資金導入として、文部科学省から私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、研究設備整備費補助金、私立大学教育研究活性化設備整備事業および大学改革推進等補助金など約1億円を受け入れました。また、科学研究費補助金として約1億円を獲得しました。その他、文部科学省から税額控除対象法人の証明を取得し、寄附金の受け入れに努めました。
- (3) 医科歯科総合病院の老朽化対策のため、病院将来構想検討委員会を設置し新病院の開設に関する検討が行われています。

激しく変化する社会において、その明るい未来を切り開いていくことが大学の役割です。創立40周年を迎えた今、これまでの伝統と実績を踏まえ、口腔歯科医学・歯科医療の充実・進展への寄与、介護・福祉増進等への貢献を目指して、全役員・教職員が一丸となって大学改革に努めて参ります。

## 学校法人福岡学園 平成24年度事業報告書

### I 法人の概要

#### 1. 法人の目的

学校法人福岡学園は、昭和48年に西日本唯一の私立歯科大学として「福岡歯科大学」を開設し、現在、口腔医学の学問体系の確立・育成と全身の疾患が理解できる医療人の育成に向けて、特色ある教育研究を行っている。また、地域の医療センターとしての「医科歯科総合病院」のほか、平成23年12月には臨床実習の拡充や地域歯科医療の向上等のため「口腔医療センター」を博多駅前に開設した。この他、全国初である「口腔保健学士」認定専攻科を有する「福岡医療短期大学(歯科衛生学科・保健福祉学科)」、全国に先駆けて高齢者福祉のための「介護老人保健施設 サンシャインシティ」を併設している。このように、今日まで一貫して教養と良識を備えた有能な歯科医師、歯科衛生士、介護福祉士の養成及び教育・研究者を育成することを目的とし、教育・研究の質の向上及び地域医療・福祉への貢献を目指している。

#### 2. 沿革

昭和47年 7月	学校法人福岡歯科学園寄附行為認可、福岡歯科大学設置認可
昭和48年 2月	福岡歯科大学附属病院開設
昭和48年 4月	福岡歯科大学開学
昭和55年11月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校設置認可
昭和56年 4月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校開校
昭和60年 3月	福岡歯科大学大学院設置認可
昭和60年 4月	福岡歯科大学大学院開学
平成 8年10月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校の福岡医療福祉専門学校への校名変更及び同校の社会福祉専門課程設置認可
平成 8年12月	福岡医療短期大学設置認可
平成 9年 3月	福岡医療福祉専門学校歯科衛生専門課程募集停止
平成 9年 4月	福岡医療短期大学開学、福岡医療福祉専門学校開校
平成11年 2月	福岡医療福祉専門学校歯科衛生専門課程廃止認可
平成11年 4月	福岡医療短期大学専攻科歯科衛生学専攻開設
平成11年12月	福岡医療短期大学保健福祉学科設置認可
平成12年 1月	福岡医療福祉専門学校社会福祉専門課程募集停止
平成12年 4月	福岡医療短期大学保健福祉学科開設
平成14年 1月	福岡医療福祉専門学校廃止認可
平成14年 8月	介護老人保健施設（サンシャインシティ）開設
平成15年 4月	福岡医療短期大学歯科衛生学科3年制へ移行
平成16年 7月	人事考課制度導入
平成17年 1月	病院名を福岡歯科大学医科歯科総合病院に改称
平成17年 4月	教員の任期制導入
平成20年 4月	福岡医療短期大学歯科衛生学科の専攻科が大学評価・学位授与機構の認可を得て、学士（口腔保健学）の専攻科として認定
平成23年 6月	法人名を福岡学園に変更認可
平成23年11月	福岡歯科大学口腔医療センター開設認可
平成23年12月	福岡歯科大学口腔医療センターを開設
平成25年 4月	福岡歯科大学の学部・学科名を口腔歯学部口腔歯学科に変更

### 3. 設置する学校・学部・学科等、その入学定員、学生数等の状況

(表1)

(平成24年5月1日現在)

学校名	学部学科等名	開設年度	修業年限(年)	入学定員(人)	収容定員(人)	在学者数(人)
福岡歯科大学 (学長 北村憲司)	歯学部歯学科	昭和48年	6	120	720	584
	大学院歯学研究科	昭和60年	4	18	72	48
福岡医療短期大学 (学長 栢 豪洋)	歯科衛生学科	平成9年	3	80	240	265
	保健福祉学科	平成12年	2	40	80	59
	計			120	320	324
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	平成11年	1	20	20	20

施設名	区分	開設年度	定員(人)	1日当り利用 平均(人)	年間利用 延数(人)
介護老人保健施設 サンシャインシティ (施設長 中島興志行)	入所	平成14年	85	79.6	29,049
	通所	平成14年	40	16.5	4,789

### 4. 出願者及び入学者等の状況

(表2)

学校名	学部学科等名	平成24年度入学者				平成25年度入学者			
		出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者
福岡歯科大学	歯学部歯学科	211	197	174	95	226	214	176	99
	大学院歯学研究科	11	11	11	11	11	11	11	11
福岡医療短期大学	歯科衛生学科	101	100	100	93	112	111	110	98
	保健福祉学科	47	46	36	35	38	37	34	33
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	20	20	20	20	25	25	25	24

### 5. 教職員数

(表3)

教員数

(平成24年5月1日現在)

	教授等	准教授	講師	助教	助手	小計	客員教授	客員准教授	臨床教授	臨床准教授	非常勤講師	合計
大学	37	19	34	53	-	143	14	2	19	5	72	255
短大	9	4	5	2	1	21	-	-	-	-	21	42
老健	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
合計	47	23	39	55	1	166	14	2	19	5	93	298

(表4)

## 職 員 数

(平成24年5月1日現在)

	事務職員	技術職員	技能職員	補助職員等	医療職員	介護職員等	医員	合計
大学	43	7	4	25	-	-	-	79
短大	3	-	-	-	-	-	-	3
病院	8	-	-	4	86	-	58	156
口腔医療センター	1	-	-	-	6	-	1	8
老健	1	-	-	2	16	37	-	56
合計	56	7	4	31	108	37	59	302

※非常勤職員を含む。

## 6. 役員・評議員・役職教職員

(平成24年5月1日現在)

(表5) 理事・監事・顧問 15名

理事長	田中健藏
常務理事	水田祥代
常務理事	本田武司
理事	北村憲司
理事	栢豪洋
理事	荒川規矩男
理事	宮口嚴
理事	厚谷彰雄
理事	小島寛
理事	田代英雄
理事	大石秀雄
理事	長谷宏一
監事	安倍徹
監事	長友泰明
顧問	岩崎光太郎

(表6) 評議員 27名

評議員	田中健藏
評議員	北村憲司
評議員	栢豪洋
評議員	小島寛
評議員	厚谷彰雄
評議員	香月俊博
評議員	本山久美子
評議員	石橋慶憲
評議員	水田祥代
評議員	本田武司
評議員	中島與志行
評議員	中山宏明
評議員	池邊哲郎
評議員	荒川規矩男
評議員	田代英雄
評議員	大石秀雄
評議員	長谷宏一
評議員	松田峻一良
評議員	染矢廣美
評議員	熊澤榮三
評議員	朔啓二郎
評議員	前原喜彦
評議員	宮口嚴
評議員	武井俊哉
評議員	吉田公典
評議員	高橋裕
評議員	松浦正朗

(表7) 役職教職員

大学長	北村憲司
短大学長	栢豪洋
医科歯科総合病院長	小島寛
事務局長	厚谷彰雄
学生部長	岡部幸司
情報図書館長	大関悟
口腔・歯学部門長	佐藤博信
全身管理・医歯学部門長	湯浅賢治
社会医歯学部門長	埴岡隆
基礎医歯学部門長	谷口邦久

## II. 事業の概要

### 1. 教育の改善・充実

#### 1) 口腔医学の確立・育成

本学では、“口腔”を身体の一つの臓器と位置づけ、現在の歯学教育の高度専門化とともに一般医学教育を充実させた「口腔医学」を確立・育成することは、超高齢社会を支える歯科医学・歯科医療にとって非常に重要であるとの考えから、「歯学から口腔医学へ」をモットーに、口腔医学教育・口腔医療の確立・育成のフロントランナーとして、その実践に努めてきた。

平成 25 年 4 月から、国民の負託に応える本学の意図を社会に広めるとともに、学生・教職員と歯科医師の意識改革や社会・国民の歯学・歯科に対するイメージの变革を期待して、**福岡歯科大学の学部・学科の名称を「口腔歯学部・口腔歯学科」に変更**することを決定した。

また、平成 20 年度文部科学省選定の戦略的  
大学連携事業『口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考』（助成期間：平成 20 年 11 月 20 日から平成 22 年度まで）については、引き続き、本学を代表校とする連携 8 大学（九州歯科大学、北海道医療大学、岩手医科大学、昭和大学、神奈川歯科大学、鶴見大学、福岡大学、福岡歯科大学）で作成したシラバスに基づいた連携大学間での TV 配信授業「医歯学連携演習」の開講、基礎医学（解剖学）のモデルカリキュラム作成、連携大学間で職員の短期研修派遣及び F D 研修会の開催等に取り組んだ。この他、1 月には北海道・東北地区で初めて「口腔疾患と全身疾患との関わり」をテーマとして口腔医学シンポジウムを開催し、専門医による最新知見の紹介とともに、口腔ケアの重要性等について広く社会に対しアピールを行った。

#### 2) 文部科学省・大学教育改革 G P の推進

##### (1) 福岡歯科大学

**「大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）」を継続実施**

平成 21 年度に採択された標記プログラム『臨地体験と就業情報通信システム構築による歯学生の就業支援強化』（事業期間は平成 21 年 8 月 31 日から平成 23 年度まで）は、特色のある診療施設での臨地体験や優れた診療施設等の就業先情報を収集し、就業情報通信システムを通じて学生に就業意識を向上させ、歯科医師への就業支援を行うことを主な目的としており、引き続き学内予算を措置して継続実施した。平成 24 年度は、臨地体験に第 6 学年 28 名を 12 施設に派遣して一般歯科医療の現場を体験させるとともに、昨年度講師の中から高い

評価の得られた 4 名の歯科医師を講師としてキャリアパス講演会を開催した。

また、就業情報通信システムに搭載の本学卒業生が経営・勤務する診療医院情報については、直接入力できる機能を付加したことにより登録件数が増え、3 月末での登録件数は約 1100 件を超えた。

##### (2) 福岡医療短期大学

**①「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」を新規実施開始**

平成 24 年度文部科学省教育事業『産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業』（9 月 20 日付選定）において、大学グループ 23 大学（幹事校：福岡工業大学）との連携のもと、a) 社会体験や職業実践性を重視した教育と b) コミュニケーション能力を中心としたキャリア形成教育等について取組を実施し、短大全体の教育支援態勢の充実を図ることができた。

**②「大学教育・学生支援推進事業（就職支援推進プログラム）」取組優秀校**

平成 21・22 年度に実施した文部科学省『大学教育・学生支援推進事業』就職支援推進プログラムについて、10 月 22 日の実地視察受審の結果、取組優秀校として選定された（1 月 30 日付）。

##### 3) 歯学部の教育

###### (1) 口腔医学教育の実践

① 口腔医学カリキュラム確立の推進

一般医学科目の充実（授業時間増・新科目設置）を中心とした新しい口腔医学教育カリキュラムを実施した。また、連携 8 大学共有科目である「医歯学連携演習」を TV 配信により継続的に実施するとともに、各大学間で共通の定期試験問題による成績評価を行った。

② 診療参加型臨床実習の質の確保等

第 5 学年後期での臨床実習から、医科歯科総合病院に加え、口腔医療センターでの実習を開始した。また、共通評価シートを用いた客観的評価を行い、診療参加型実習の質の確保に取り組んだ。特に、総合歯科の実習中に、医療面接の総括的評価を実施した。

③ 患者型ロボットの設置

平成 24 年度私立大学教育研究活性化設備整備事業の「患者型ロボットを用いた救急時対応口腔医学実技教育システム」の取組が採択され、3 月末に本館 4 階器材室の一部をシミュレーションロボット実習室に改修のうえ、患者型ロボ



ットを設置した。このロボットを用いて第5学年の臨床実習の中で、救急時対応医科歯科統合シミュレーション実習を平成25年度後期から実施する。患者を想定した実習を可能とすることにより臨床実習内容の充実を図り、新たな口腔医学臨床実習の構築を目指すものである。

この他、第6学年前期の臨床実習には2つのコースを設け、実習成績が不十分な学生にはシミュレーターを用いた補強実習を行った。この間、臨床実習中に海外（ブリティッシュコロンビア大学、上海交通大学）や学外施設（主に本学臨床教授・臨床准教授の診療施設）での研修を行うなどの積極的な取り組みも実施した。

## （2）創造力を持った人材の育成

### ①本学独自の学年制の導入

教育現状の改善策として、学務委員会のWGで検討し、平成25年度から新たな学年制を導入することとした。このことにより、新たに策定した教育実施要領に基づき、全学年にきめ細かい教育を行い全学生の学力向上を図る。

### ②自学自習システムの充実

情報システム委員会教育情報管理運営部会において、e-learningシステムを利用した授業科目コンテンツ作成のための説明会を9月に開催し、各分野2つのコンテンツ、計40本作成した。今後、タブレット端末からのアクセスも可能となるよう取り組む。

### ③リメディアル教育の充実

入学時にプレースメント・テストを実施し、各学生の実力を把握し助言指導を行うとともに、未履修・不得意科目の学力向上を図った。

### ④介護実習の実施

第1学年後期の介護施設実習、第3学年後期の介護宿泊実習、第5学年前期の介護施設での臨床実習を実施した。

## 4）大学院の教育

### （1）高度な研究能力と豊かな国際感覚の涵養

本年度の課程修了は第4学年7名、第3学年1名であり、学位を取得した。論文博士は3名を認定した。なお、学位審査における外部評価委員の導入については、福岡大学及び中村学園大学と連携し、引き続き相互派遣を実施した。

また、今年度も学部第3学年後期「基礎研究演習」で基礎講座での研究活動を体験させ、将来の大学院生確保に向けての研究者マインドの醸成に努めるとともに、京都大学大学院医学研究科に2名、東京女子医科大学大学院医学研究科に1名を派遣した。

この他、奨学生制度においては、一般奨学生10名、特別奨学生10名、リサーチアシスタント12名、ティーチングアシスタント13名を選考した。また、学生共済会大学院一般奨学金を2名に貸与した。

### （2）口腔医学を基盤とした知的人材養成

大学院充実PTにおいては、医科と連携した歯科治療の実践について検討し、口腔医学に沿って総合医学基本テーマを充実させるため、医科疾患の診断・治療の臨床演習を実施した。

## 5）医療短大の教育

### （1）高度かつ実践的教育

3年次の施設実習において、より入所者に寄り添った実習が行えるよう、実習施設と連携して実習帳を改編して実習を行った。

### （2）専門分野のエキスパート養成

口腔介護（要介護者への口腔ケア）教育の充実と質の保証のため、本学独自の認定資格として、口腔介護推進歯科衛生士（歯科衛生学科）、口腔機能向上推進歯科衛生士（専攻科）、口腔ケア支援介護福祉士（保健福祉学科）を認定する資格制度を開始した。

歯科衛生学科においては、口腔介護（要介護者への口腔ケア）教育を充実させるため、2年次後期授業で口腔機能向上に向けた講義・実習を行ったほか、ヘルパー2級の資格取得のための講義、施設実習、訪問介護実習を行った。

保健福祉学科においては、平成25年度新2年次生を対象とする①口腔ケア教育と②喀痰の吸引技術や胃瘻等の栄養管理などの医療的ケア教育について、サンシャインシティ、サンシャインプラザを教育の場として活用するとともに、同介護職員2名に非常勤講師として実践教育に携わってもらう等の人的教育資源の活用の準備を進めた。

### （3）将来像の検討

歯科衛生学科は他大学のカリキュラムを入手し、教育内容等の検討を行った。保健福祉学科は昨年度に比べ、高校新卒学生の受験者が増加した。また社会人受験生を対象とした募集活動について幅広く検討し実施していることから、今後の志願者動向を分析し、その在り方を検討した。

## 6）教員の教育能力および教育の質等の向上

### （1）福岡歯科大学

#### ①FDの活性化

FD委員会において、毎年、組織的なFDの実施に取り組んでいる。今年度も効果的なFDを事業別に3つに大別し、1)学生支援の充実、2)教員の資質向上、3)大学院及び研究の活性化について、1)と3)は3回、2)は4回実施した。

この他、今年度も、九州大学を幹事校として福岡市の6大学で構成する「九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク(Q-L i n k s)」が企画したQ-L a b C Dプロジェクトに本学から1名が、ODプロジェクトには3名が参加した。また、戦略的大学連携事業の一環とし

て、11月に口腔ケア教育に関するFDワークショップを連携大学間でTV会議システムを用いて開催し、遠隔の大学間においても活発な意見交換を行うことができた。

その他、FD関連事業として、セクハラ防止委員会との共催でハラスメント講演会を5月に開催、助言教員制度を充実させるためのワークショップを6月に3回開催、多肢選択問題作成ワークショップを11月に開催、シラバス作成ワークショップを12月に開催する等、教員の教育力向上に努めた。

## ② 学生指導マニュアルの作成

低学年(1~3学年)助言教員FDを開催し、指導の継続及び指導困難な学生への対応等について協議するとともに、助言教員学生指導マニュアルー低学年ーを作成した。

## (2) 福岡医療短期大学

教育力の向上を目的として、全教員が講師を担当するFD講演会(教育方法の工夫、口腔介護教育、研究に関する報告等)を継続して開催している。平成24年度は毎月1回のFD講演会に加えて、科研費獲得に向けた研究活動の推進のために、毎週1回の短大合同抄読会を開催した。また、平成24年度『産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業』の取組として、職業実践性を重視したコミュニケーション能力育成について学外有識者による特別FD講演会を計3回実施した。

## 7) 国家試験

### (1) 福岡歯科大学

激励会の開催、予備校模擬試験・予備校講義の実施及び卒業試験・再試験問題のブラッシュアップ等の合格率向上のための対策を種々講じた。また、第6学年の歯科医師国家試験対策の指導体制を強化する新たな取り組みとして、医員4名が学生への指導を行った。その結果、今年度は97名が卒業を許可され第106回国家試験を受験し、70名が合格した。合格率は72.2%であり、前回の72.6%から0.4ポイント減で昨年とほぼ同様な結果となった。既卒者を含めた総合の合格率は69.5%で17私立歯科大学中第8位であった(私立歯科大学全国平均合格率67.2%)。

共用試験は、第4学年97名が受験しCBTで13名が再試を受験した結果、5名が不合格となり留級した。なお、4学年全員に用語集を配付し、共用試験に向けて早期対応を図った。

### (2) 福岡医療短期大学

歯科衛生学科は、過年度に引き続き歯科衛生士国家試験の100%合格を目指して、国家試験演習を11回実施するとともに、各回の成績不振者に対しては、水曜日、土曜日に国家試験問題集を使用する補習を実施するなど、全教員が早期から対応した。また、第21回国試より問題が20問増え、新たに高齢者歯科学及び障害者歯科学等の追加に対応した口腔保健テーマ別講義日程を作成、実施した。その結果、第22回歯科衛生士国家試験では受験者88名のうち87名が合格した。(全国平均合格率96.2%)

## 2. 研究の活性化

### 1) 研究の質の向上

#### (1) 口腔医学国際シンポジウムの開催

11月に国際交流協定校(ブリティッシュコロンビア大学、慶熙大、ヤンゴン歯科大学)から講師を招いて、口腔医学国際シンポジウムを開催した。海外の教育事情を確認するとともに、改めて口腔医学の重要性を認識した。

#### (2) 研究マネジメント体制の整備等

福岡歯科大学・福岡医療短期大学における研究活性化の一環として、専任教員及び医員等を対象に、6か月毎に研究(研修)テーマの取組み進捗状況をまとめ所属長を経て理事長に提出させ、理事長はこの報告書をもとに学長とともに各所属長と面談を行い、若手教員の育成、計画的な研究の実施に向けての指導を行った。

また、教育研究経費等として、福岡歯科大学には学長重点配分経費50,000千円、病院長重点配分経費5,000千円、学術振興基金事業経費

21,700千円を、福岡医療短期大学には1,000千円を共同研究費として重点配分した。

平成24年度の研究業績は、福岡歯科大学専任教員の総論文数(著書、総説、原著論文、症例報告等)は164編、うち欧文は81編であり、福岡医療短期大学専任教員の総論文数(著書、原著論文等)は21編、うち欧文は2編であった。(別表1)

### 2) 先端科学研究センター

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の支援を受けて、「疾患の抑制におけるゲノム安定性と環境ストレスの制御」の研究を平成20年度より5年間にわたって実施した。平成24年度はその5年目にあたり、最終年度になるので、研究経費40,000千円を重点配分して、これまでの4年間の研究を引き継いで計画研究と公募研究の2つの方式で研究を進めた。疾患の発症やその進行には遺伝的及び環境



的要因が複雑に絡みあっているが、生体内でゲノムを安定に維持する機構を明らかにし、それに関わる遺伝子産物の働きの解明を通じて疾患を抑制する手だてを探るという立場で研究を進めてきたが、計画研究ではこの問題に関連する基礎から臨床にまたがる諸課題を解明するため12名の研究者が研究を行った。公募研究はこれに関わる問題に対してより自由な立場から挑戦し、新しい視点から研究を展開しようとして設定したものである。そのため学内の教員から公募した課題について、計画研究の担当者が紙面と口頭発表に基づいて審査を行い、11課題を採択した。その研究者と課題名は別表2に示す通りである。研究結果について平成25年の3月25日に学内公開の発表会を開いて報告した。なお、これまでの研究成果については、「平成20年度～24年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業研究成果報告書概要」を平成24年9月に文部科学省へ提出した。

先端科学研究センターの実験室には、これまでの戦略的研究基盤形成支援事業の支援を受けて購入した多くの機器を設置しており、計画研究、公募研究の担当者を中心に学内の多くの研究者が共同利用して成果をあげている。本年度は微量高速冷却遠心機、遺伝子導入装置及びクリーンベンチを新たに設置した。

### 3) 再生医学研究センター

文部科学省の平成22年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された研究プロジェクト「生体内環境を調和する硬組織再建システム」に関する研究を継続して行っている。実施期間は平成22年度から平成26年度までの5年間であり、3年目にあたる平成24年度も過年度と同じく研究費として約29,000千円の予算を組み、計画研究を行う11名の研究者と、学内公募により採択された6名の研究者に配分し、研究を実施した。研究進捗状況を研究分担者全員で把握するために月1回の報告会を継続して行っている。平成23年度の研究報告会を5月に行った。プログラムを別表3に示す。また、9月末にプロジェクト開始から2年間にわたって得られた研究成果報告として、研究進捗状況報告書を作成し文部科学省に提出した。平成25年1月には再生医学研究センターシンポジウムを開催し、東京女子医科大学先端生命医科学研究所、岩田隆紀特任講師を招いて「細胞シート工学に基づいた歯周組織の再生」というタイトルで特別講演を行った。平成22～23年度の研究報告を中間報告書としてまとめ、冊子体を作成した。

### 4) 老化制御研究センター

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の支援を受けて、「老化の抑制と疾患

の制御における環境ストレスとゲノムの応答」の研究を平成24年度より5年間にわたって実施予定である。平成24年度はその初年度にあたり、研究経費40,000千円のうち25,800千円をセンター機器充実費ならびに運営費として、14,200千円を計画研究者14名に配分して事業を進めた。計画研究者の氏名、所属・職ならびに研究分担課題は別表4に示す。

主要なセンター機器として、生体成分の検出・定量にルミノ・イメージアナライザー、生体成分の分離測定にACQUITY UPLC UVシステム、組織細胞の観察にHSオールインワン蛍光顕微鏡が整備され、導入直後から多くの参加研究者に高頻度で利用されている。

老化の進行は基本的には生理的な過程であるが、その速度やレベルは遺伝的要因と環境条件に大きく左右される。生物は様々な環境ストレスに対抗して生命を維持する能力をもっているが、そのもとなる情報はゲノムの中に保持されており、ゲノム情報を安定に維持し、情報を的確にとり出して応答する機構を明らかにすることが老化の進行や疾患を抑制する方策をたてるために必要である。本研究はそのような観点にたつて研究を進め、それによって疾患の治療に役立つ情報を得るとともに老化の進行を抑える基盤を確立しようとするものである。この研究を遂行するには基礎生命科学から医学、歯学にまたがる研究者の共同作業が必要である。そこで本研究では、福岡歯科大学に所属する分子生物学や細胞生物学、さらに口腔医学や臨床医学を専攻する研究者がチームを組んで研究を進める体制をとっている。その中心になるのは老化の抑制やがんを含む疾患の制御に関わる研究を行っている14名の教授層の研究者で、それに若手の研究者が参加し協力して研究を進めている。また、この分野の研究は世界的にも日進月歩の勢いで進んでおり、国際的な連携が不可欠である。そこでこの分野で活発な研究活動を行っているアメリカ、フランス、中国の5人の研究者の参加を求め、最新の情報を共有しつつ弾力的に研究を進めたい。このような先進的な研究教育体制に大学院生を含む若手の研究者を組みこみ、将来の研究と教育を担う人材を育てたい。

なお、初年度の成果はアメリカ、UC BerkeleyのStuart Linn教授、ならびに中国、北京医院のJian-Ping Cai教授を招いて、平成25年9月9日に福岡歯科大学国際シンポジウムで報告する予定で、さらに同年9月11日に横浜で開催される第86回日本生化学会での国際シンポジウムの中で広く社会に向かって情報発信すべく現在準備中である。

## 5) アニマルセンター

使用者講習会は、更新者（4年毎）20名、新規登録者23名が受講した。実験申請件数は23件であった。動物種の導入ではSPF室を利用したSPFマウスが17匹増、CVマウスが218匹増、またウシガエルは21匹の増加となり、研究活動の活性化も見られた。また、2台の大型オートクレーブを2年にわたり、順次オーバーホー

ルして、利用者へのサービス向上を図った。

## 6) 医科系教員共同研究室の整備

若手研究者の交流促進等を目的として、内科学、外科学を除く医科系の講師、助教のための共同研究室を病院4階に改修整備するとともに、近接する男女共用トイレを男女別トイレに全面リニューアルした。

## 3. 学生の支援等

### 1) 修学等の支援

#### (1) 修学支援システム及び主体的学習支援体制の整備・充実

##### ① 学生ポートフォリオの作成

低学年（1・2学年）助言教員FDを開催し、助言教員と学生とのコミュニケーションの取り方について協議した。また、班別懇談会を複数回開催して学生の状況把握に努め、特に指導が必要な学生に対しては個別面談を適宜実施のうえ、指導状況を学生ポートフォリオ（学生指導記録）として作成した。このポートフォリオは平成24年度から導入し、助言教員が学生を指導の際の資料や引継ぎ資料として利用する等、学生に対する適切な指導を行った。

##### ② 多様な学生に対応した将来の進路を含めた指導の実施

福岡歯科大学では、助言教員が日々学生の指導を行っているほか、オフィスアワーにおいても修学上の問題等について個別の面談や相談を実施している。平成24年度においても、休退学に関して学生や保護者からの多くの相談に、学生部長、学生部次長、助言教員が個別に丁寧に対応した。

福岡医療短期大学両学科では、成績不振学生に対する補習授業を実施するとともに、各期毎に学年担任と助言教員による父兄面談と学生指導を継続して行った。

##### ③ 本館の給排水管の全面リニューアル化工事

学習環境整備改善の一環として、33年経過し経年劣化に伴う配管の腐食による漏水、排水不良（詰まり）、給水の赤水の解消のため本館全体の給排水管の全面リニューアル化工事を実施した。

##### ④ 老化制御研究センターの設置改修工事・講義室の改修

老化制御研究センターを602講義室の2スパン分に設置することに伴い、残る2スパン分を小講義室に改修整備及び502教室と隣り合う学生ホールを一体として大講義室に改修整備した。

##### ⑤ 部室等のトイレのウォシュレット化工事

学習環境整備改善の一環として部室（弓道

場）男女5箇所、体育館1階2階の男女4箇所の既設洋風便器のウォシュレット化工事を実施した。

##### ⑥ 解剖学実習棟の屋上防水の全面リニューアル

9月の台風16号により解剖学実習棟の屋上防水が損傷したため屋上防水全面リニューアル工事を実施した。

##### ⑦ 短期大学1階女子トイレの洗面台等の更新

学習環境整備の一環として、昨年度のトイレウォシュレット化工事に引き続き、1階女子トイレの洗面台等を12月に更新した。

#### (2) 高校との連携推進

福岡歯科大学では、口腔医療・口腔保健・口腔介護を志向する高校生を支援するため、積極的に職場体験を受け入れるとともに、依頼のあった高校に出向いて講義を実施した。また、オープンキャンパスでは模擬実習体験等を通して、参加した中高生の興味に応えた。併せて、高校教員計4名を招聘し、本学の教育の特色等に触れてもらい、終了後の学長、学生部長との懇談会で、率直な意見・感想等をいただいた。

福岡医療短期大学では、口腔保健・介護福祉に関心を持つ高校生を支援するため、当該分野の講義や実習等の依頼があった高校に出向いて進学ガイダンスを実施した。また、オープンキャンパスでは専門領域に関連した実習体験を実施し、向学心のある参加学生等に対応した。

#### (3) 学生の経済支援の充実

福岡歯科大学では、各種奨学金の案内及び手続きを随時行ったほか、経済的に困難な学生に対して授業料減免や学生納付金納付猶予等、関係課とも連携しながら相談に応じた。

福岡医療短期大学では、在学生に対する各種奨学金の周知と申請手続き等の支援を随時実施した。また、介護福祉士をめざして学ぶ意欲のある学生が経済的理由で進学や修学を断念することがないように、学生納付金減免制度を引き続き運用した。

#### (4) 学生納付金の引き下げ

福岡歯科大学では、今日の社会経済状況や他大学の学生納付金引き下げ等を考慮し、優秀な

学生を確保するため、平成 25 年度入学生より 6 年間総額 450 万円の引き下げを行った。

### (5) 福岡歯科大学父兄後援会・学生共済会・同窓会との連携

① 8 月に 17 地区で開催された父兄後援会支部懇談会に、本学から北村学長及び役職教員が出席し、本学の現況、学生の学業成績等について説明し、父兄の協力を要請するとともに父兄からの要望も聴取し、支部懇談会終了後の報告会において回答を行った。

② 学生共済会は、3 月及び 5 月に理事会と代議員会の合同会議を開催し、学生の支援のために実施する諸事業について審議し、年間の事業計画を決定した。平成 24 年度は就学共済給付金を 3 名に給付したほか、一般奨学金貸与は 33 名、大学院一般奨学金は 2 名に貸与する等の支援を実施した。

③ 同窓会については、毎年 5 月に開催される同窓会定時総会懇親会や定例懇談会に理事長他役員が出席し、意見交換を行って連携を図った。また、5 月 27 日には同窓生オープンキャンパスを開催し、理事長、大学長他役職教員等及び同窓会役員が出席して、参加された同窓生とその子弟らに学内施設見学や大学及び入試の概況説明を行った。今年度新企画として実施した参加者の高校生と在学生との座談会は、活発な意見交換がなされ盛況であった。

## 2) 学生の受け入れ

### (1) 学生募集活動の強化と多様な選抜方法の策定

アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについては、大学・短大ともにホームページ、大学案内、入学試験要項等で公開し広く周知を図った。

福岡歯科大学では、平成 24 年度の広報については、入試委員会及び受験者対策 P T を中心に検討のうえ高校訪問募集活動を見直し、①高校訪問前の担当教員の説明会の徹底、②高校訪問対象校の見直し、③高校訪問時の資料の整備を行ったほか、重点校に対して効率的な高校訪問を行った。高校教員との関係も強化され、受験に関する相談等の連絡も増え始めた。歯学部や歯科医師の現状を記した資料は喜ばれ、教室や進路資料室に掲示してくれる高校もでてきた。また、昨年度に引き続き、九州内で実施される進学相談会に積極的に参加した。この結果、平成 25 年度の入学者数は最終的には 99 名となった。

福岡医療短期大学では、学生募集活動についての組織的な方策を短大運営会議において継続して検討し、高校訪問募集活動のエリア担当者を定め、効果的に実施した。また、保健福祉学科では入学者の授業料減免制度、学生納付金の 4 期分納制度を継続運用するとともに、福岡県職業訓練制度を利用した志望学生を積極的に受け入れ 33 名の入学生を確保した。

歯科衛生学科では、オープンキャンパスにおける「歯科衛生士体験」(平成 22 年度から実施)が好評であったので、これをシリーズ化し専攻科生による指導を加えて 16 回実施し学生の確保に努めた。また高校生対象の進学ガイダンスや出前講義など実施した結果、98 名の入学生を確保した。

### (2) 入試広報機能等の充実

福岡歯科大学及び福岡医療短期大学両学科のスマートフォンサイトを開設したほか、入試情報の特設ページを開設するなど、最新の入試情報等の発信に努めた。

## 4. 社会との連携・貢献

### 1) 医科歯科総合病院

#### (1) 患者数等

外来患者・入院患者総数等は表 8 のとおり。

表 8 外来患者・入院患者総数等

	外来患者総数(人)		入院患者総数(人)	
	24 年度	対前年比	24 年度	対前年比
医科	33,261	2.2%減	6,064	3.5%減
歯科	122,164	増減なし	3,679	13.3%減
合計	155,425	0.5%減	9,743	7.4%減
1 日当	577.8	—	26.7	—
平均在院日数	—	—	9.2 日	—
病床稼働率	—	—	48.0%	4.3%減

#### (2) 安全で良質な医療の提供

##### ① 診療責任体制の整備・確立

診療の責任体制は診療科長、副科長を定め責任を明確にしておき、新患の診察は教授が担当している。病院長を中心に医療事故防止対策委員会・院内感染防止対策委員会において医療事故・ヒヤリハット分析 269 件(平成 23 年度 340 件)を報告し、問題点の共通認識と問題解決策の検討等を実施した。

##### ② 信頼される病院への態勢整備

インフォームドコンセントの手順の見直し、セカンドオピニオンのご案内の新規作成を行い、病院職員手帳に記載するとともに職員周知のための講習会を行った。

### ③ 医科と歯科の連携システムを整備・強化

医科と歯科の円滑な連携を可能にする電子カルテ化に備え、全科フィルムレス化構想を策定し、まず3階大診療室における画像データのチェアサイド閲覧を可能にした。また、全科フィルムレス化を進めるため検討を行い、3月までに纏めた。

### ④ クリティカルパスの見直し

質の高い医療提供のため、クリティカルパス委員会で見直しを実施した。

### ⑤ サービスの向上

患者のご意見や医療相談室に寄せられた相談140件（平成23年度116件）について、医療相談室が対応してより良い対応策・改善案を提案したほか、サービス・マナー向上委員会において、更なる向上を図った。

### ⑥ 土曜診療の充実

土曜日の1日患者数平均は歯科71.8人（平成23年度78.6人）医科24.66人（平成23年度26.6人）、合計96.4人（平成23年度105.2人）であり、8.3%減となった。

### ⑦ 歯科医師臨床研修の充実

平成24年度歯科医師臨床研修は、56名（複合型研修プログラム53名、単独型研修プログラム3名）が研修を行ったが、1名が中断した。平成25年3月29日には中断者1名を除く55名に修了証が授与された。

歯科医師臨床研修の指導歯科医講習会を7月に開催して指導にあたる者のスキルアップを図った。

研修歯科医の研修と指導は、月1回のペースで臨床実習実務担当者会、臨床研修委員会を開催し、臨床研修の進行状況を把握、研修の充実とポートフォリオ・日誌の確認を行った。また、臨床研修の評価基準の施設間の平準化を図るために評価マニュアルを作成し、協力型臨床研修施設と共有し、これに基づく評価を実施した。

この他、協力型臨床研修施設の定期訪問を行い、指導環境や施設基準の確認、問題点の指導を行うとともに、医療安全に関する講習会を開催するなど、協力型臨床研修施設に対し管理型臨床研修施設として管理した。

## （3）病院管理体制の整備・強化

### ① 病診・病病連携体制の確立

返書状況を病診連携室で毎月チェックして、紹介元への返書率を向上させた。また、行政や在宅サービス提供事業所などと連携し、担当窓口として情報の共有を行ったほか、毎月一回程度開催される研修会に積極的に参加し、他病院の連携室担当者や在宅サービス実施事業所の担当者との連携を強化した。

### ② 医療経済教育の実施

診療報酬の改定に当たり、説明会を実施して改定内容の理解を深めた。また、カルテ記載の

正確性向上のため、カルテチェック責任者による指導の徹底を図った。

### ③ 患者増対策

新聞広告、近隣町内会回覧板広告、西鉄バス車内放送、学園出入口付近看板広告やソーシャルワーカーが紹介実績のある開業医に、当院への紹介の際に使用する紹介状・病院案内等を送付または持参し、他病院の連携室担当者や在宅サービス実施事業所の担当者との連携を図り患者増に努めた。また、「お口と体の無料健康相談」の開催、出前講座「心と体・口・歯の健康の話」講演時にスライドによる病院紹介等を行った。

平成25年4月に開設する小児科、整形外科の開設準備を行い、新聞の開設案内の折込チラシを配布し、近隣の整形外科9件を訪問し協力を依頼した。病診・病病連携を強化すべく活動を行ったが、患者数は外来577.8人（平成23年度579.7人）で0.5%減、入院26.7人（平成23年度28.8人）で7.4%減となった。

### ④ 新病院建設に向けた計画策定

病院将来構想検討委員会の各専門委員会（診療科改組・臨床教員充実、臨床研修・実習充実、病診連携・患者増対策、病床増対策）で、口腔医学の確立に向けた診療科の整備、医科・歯科連携診療部門の策定及び病床増等を含めた将来構想について継続的に検討した。

### ⑤ 情報公開

平成24年度は診療録等の開示要求が33件あり、個人情報保護管理委員会で審議した結果、全件開示した。その他、病院ホームページで、患者の皆様に向けて、耳寄りな話、診療Q&A等の情報を随時更新し提供するとともに、医療関係者に向けて病診連携に関する情報提供を行った。

### ⑥ 施設整備

#### （ア）歯科診療ユニット更新

病院3階大診療室の老朽化した歯科診療ユニット63台をオペレーションパネル、多機能フットコントローラーを装備した最新のユニットに更新した。

#### （イ）小児科、整形外科診療室新設工事

平成25年4月の開設に向け、病院2階に小児科診療室、4階に整形外科診療室を設置した。また、障害者歯科患者待合室を当該診療科に隣接した位置に移設設置した。

#### （ウ）患者用トイレのウォシュレット化

病院各階の患者用トイレの洋風便器のウォシュレット化工事を実施した。

## 2) 口腔医療センター

### （1）患者数等

開院から2年目を迎え、専任歯科医師11名（3月1日現在）、歯科衛生士7名（うち1名



はパート)により、年間患者総数は17,311人、1日平均患者数は64.4人となった。

### (2) 一周年記念報告会

開院1周年を記念して、12月16日に「一周年記念報告会」を開催し、スタッフがそれぞれの業務の現状や課題、今後の展望等について報告を行った。

### (3) 研修施設としての活用

今年度から福岡歯科大学5学年の臨床実習生及び福岡医療短期大学専攻科の臨床実地生の受け入れを開始し、研修施設としての役割を果たしている。

### (4) 質の高い思いやりのある医療の提供

7月から3か月間、患者の皆様のための医療の徹底と患者サービスのための接遇を見直すとともに、スタッフ間の医療連携を図った。また、12月15日に福岡歯科大学医科歯科総合病院と共同で「保険診療に関する講習会」を開催し、スタッフ教育を行った。

### (5) 口腔医療を実践できる人材の育成

同窓生や開業歯科医師等を対象とした卒後あるいは生涯研修やセミナー等を開催し、口腔医療を実践できる人材の育成と最新の医療情報の発信基地として活用している。今年度は大学主催の生涯研修16回(総参加者数:263人)、同窓会等の研修会・セミナー等11回(総参加者数:175人)が開催され、開業医も含めた多くの歯科医師が参加した。

## 3) 介護老人保健施設

本年は開所10周年を迎え、つつましく意義のある記念式典を挙行することができた。

節目となるこの年、職員一同「おもてなしの心」という施設スローガンを掲げ、利用者に選ばれる魅力ある施設として居宅介護支援事業所及び地元公民館等の協力を得て利用者拡大を図ったが、施設利用者数等は表9のとおりとなった。

表9 サンシャインシティ施設利用者数等

利用者(定員)	年間利用延数(人)	稼働率(%)	対前年比	1日当平均(人)
入所者(85人)	29,049	93.6	2.1%減	79.6
通所(40人)	4,789	41.3	9.5%減	16.5

また、教育施設として福岡歯科大学及び福岡医療短期大学はもとより近隣の福岡大学の医学部及び看護学科の実習並び福岡女子高等学校の生徒等の実習施設として、延べ1,692名を対象に福祉実習、登院実習、ヘルパー2級資格実習、口腔介護実習等を実施した。

なお、地域協力として、月1回の公園清掃への参加と参加者への体操指導等の講師派遣を実施した。

## 4) 社会連携

### (1) 大学連携事業

①「地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会」(中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学)においては、昨年度に引き続き3大学間で大学院学位審査委員を委嘱して8件の審査を実施した。また、地域の健康づくりや疾病予防等を通じて地域社会に貢献するため、4月に一般市民参加のウォーキングイベントを、11月には「免疫力を高めるための食と健康～ストレスに打ち勝つために～」をテーマに3大学主催の合同シンポジウムを開催した。この他、共同開講授業科目「食と栄養と健康」を初めて開講し、三大学の特色を生かした教養系科目を新設した。

②「西部地区五大学連携懇話会」(九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学)においては、平成21年度に締結した「単位互換に関する覚書」に基づき単位互換科目を設定するとともに、引き続き五大学共同開講授業科目「博多学」を開講した。

③「4大学歯学部交流会」(北海道医療大学、岩手医科大学及び昭和大学の各歯学部、福岡歯科大学)においては、第10回の交流会を10月12日に岩手医科大学を当番校として開催し、「学生及び教員のメンタルヘルスの対応について」をテーマとして討議、情報交換を行った。

④「大学ネットワークふくおか」(本学を含む福岡都市圏21大学と福岡市、福岡商工会議所)においては、学生企画イベントやWEBサイト等の広報活動等について協議を行った。

⑤「九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク(Q-Links)」(発足当初の参画大学:九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡女子大学、福岡歯科大学)の運営に参画するとともに、Q-Links企画の「Q-L a b C Dプロジェクト」に職員1名を参加させカリキュラム作成のノウハウを、「Q-L a b O Dプロジェクト」に教員1名、職員2名が参加し組織づくりを研修した。また、3月開催の「Q-Conference2012」には、ポスターセッションとして、口腔医学の現状に係るポスターを出展し、教員4名、職員1名が参加し、他大学参加者との交流等を深めた。

### (2) 公開講座、生涯学習等

本学園では、歯科医師、歯科衛生士、介護福祉士を養成し、キャンパス内に医科歯科総合病院、介護老人保健施設を設置しているという特色を生かし、超高齢社会における大学の地域貢献のモデルづくり等を目指し、地域貢献(別表5)、公開講座等(別表6)を展開した。

①福岡歯科大学では歯科医師等の生涯学習を支援するため、大学キャンパスでは「インプラントセミナー2012」及び「口腔インプラント初



級講習会」を、口腔医療センターでは「インプラント中級講習会」、「口腔外科・全身管理・画像診断学講習会」、「保存・歯周治療の基本と応用」及び医療関係者を対象にした「歯科臨床に役立つ内科の知識」を実施し、参加者から好評を得た。

② 福岡医療短期大学ではリカレント教育として、文部科学省の委託を受け平成 21・22 年度に実施した「歯科衛生士の口腔機能向上スキルアップ講座」の経験を踏まえ、歯科衛生士並びに歯科医師の口腔介護のスキルアップを目的として、引き続き、歯科衛生士ならびに歯科医師を対象とする「口腔介護スキルアップ講座」

(5 回コース)を実施した。プログラムは口腔ケア及び口腔機能向上の専門的講義と受講者相互による演習により構成した。5 回の受講者は延べ 193 名で、そのうち全回出席した 23 名(歯科医師 5 名、歯科衛生士 19 名)に修了証を授与した。また本年度より専攻科生も参加し、6 名に修了証を授与した。

## 5) 国際連携

### (1) 大学間交流等

#### ① 福岡歯科大学

(ア) ブリティッシュコロンビア大学歯学部(カナダ)

4 月 4 日から 2 週間、学生 4 名が同大学歯学部学生交換プログラムに参加した。10 月には同大学の Shah 教授が来学し、大学院特別講義等を行った。

(イ) 上海交通大学口腔医学院(中国)

4 月に谷口教授ら教員 2 名と学生 7 名が訪問し、視察や臨床講義を受講した。3 月に汪俊教授ら教員 3 名と学生 6 名が来学し、同教授による講演や保存科、口腔外科等の病院実習等を行った。

(ウ) 慶熙大学校歯科大学(韓国)

1 月に Jue Seong-Suk 教授と学生 4 名が来学し、相互交流を行った。

(エ) ヤンゴン歯科大学(ミャンマー)

3 月に福岡歯科大学医療チームとして大関教授ら医療スタッフ 4 名と大学院生 1 名が訪問し、同大学と共同で口唇口蓋裂等の医療活動を実施した。また、同大学長、教授会メンバー等と「口腔癌の疫学」に関する共同研究や今後の交流について協議した。

(オ) 中国医科大学口腔医学院(中国)

5 月に中国医科大学口腔医学院の路振富院長等 4 名の視察団が来学し、大学及び医科歯科総合病院並びに口腔医療センター等を見学したほか、路振富院長及び張穎教授による大学院特別講義を行った。12 月には北村学長等教職員 4 名が訪問し、学術交流協定についての協議を行った。これを受け、3 月に路振富院長等 4 名が来学し、姉妹校協定を締結(3 月 21 日)したほか、盧利副院長及び陳旭教授による大学院特別講義を行った。

(カ) 私費外国人留学生

私費外国人留学生の大学院生 1 名(中国)に対して、「私費外国人留学生授業料減免規則」に基づき授業料減免(30%)を行った。

#### ② 福岡医療短期大学

毎年歯科衛生学科の 3 年次生が学生相互の交流のために姉妹校である東釜山大学を訪問しているが、本年は日韓の諸事情により訪問を中止した。

### (2) 海外研修派遣

研究の国際化を図るため、福岡歯科大学では延べ 46 名の教職員及び大学院生を海外研修派遣した(別表 7)。その他、第 1 種研修派遣(1 月以上 1 年以内の海外派遣)としてツルク大学(フィンランド)、チューリッヒ大学(スイス)にそれぞれ大学院生を 1 名ずつ派遣した。また、福岡医療短期大学では 1 名の教員を海外研修派遣した(別表 7)。

## 5. 組織運営

### 1) 組織運営の改善

#### (1) 教育研究組織の充実

口腔医学の確立の一環として、一般医学教育を更に充実するため、小児科学、整形外科分野を平成 25 年 4 月に設置することを決定するとともに、教員配置に係る教員選考規程の改正を 11 月に行った。

#### (2) 干隈用地の有効活用

高齢者の保健、医療、福祉に携わる人材育成等を目的に、グループ法人(福)学会の新特別養護老人ホーム建設計画を承認し、福岡市の採択を条件に同用地を寄附することとした。7

月末、福岡市保健福祉局に設置に係る申請書類を提出したが、不採択となったため、平成 25 年度の申請に向け、学会役員の見直し等の手続きを開始した。なお、用地はダイエーへの賃貸を継続中である。

### (3) 柔軟で多様な人事制度の構築

#### ① 優秀な教員確保

福岡歯科大学に重点配置教員を 2 名、大学院卒後助教を 2 名採用し、優秀な教員確保を行った。また、口腔医療センターへ 3 名異動を行い、教員定数を戦略的に活用した。

## ② 管理職任期制の導入

事務局活性化に向けて、11月に「事務局管理職員の任期等に関する規則」を制定し、平成25年度から管理職任期制を導入することとした。

## ③ 就業規程、給与規程等の改正

11月に、弾力的な人事、勤務制度及び職務手当等の見直しのため「就業規程」、「給与規程」、「人事考課マニュアル」等の改正を行い、平成25年度から実施することとした。

## ④ 任期制教員の再任

任期満了となる教員（大学：准教授2名、講師2名、助教1名）（短大：准教授1名、助教1名）の再任について、審議の結果、再任申請者全員を再任した。

## ⑤ 再雇用規程の改正

3月に、高年齢者雇用安定法の改正に伴い、「学校法人福岡学園定年再雇用規程」の改正を行った。

## ⑥ 採用者等への学長講話

教職員全員が学園の目指している方向等を理解し、共通認識のもとに業務にあたり、学園目標の達成を図ることを目的として、採用・再任の辞令交付後に、学園概要、中期構想、事業計画等を説明するとともに、教職員としてのあるべき姿勢等について大学長等が講話を行った。

## ⑦ 教員の目標シートの変更等

目標シートを第二次中期構想に沿った様式へ変更するとともに、各領域における配分率の上限を変更した。また、実績表をより簡潔に記載できるよう様式を変更した。さらに、自己評価の際提出するアカデミックポートフォリオの様式を人事考課マニュアルに組み入れた。

## (4) 大学運営の活性化と人材育成等

### ① 人事考課システムの効果的活用

平成25年から考課回数を全職種1回とし、期中に中間面談を義務付けることとした。また、事務職員については、他職種に先行して「業績評価の期末手当への反映」を決定し、主体性を持った業務遂行の促進を図ることとした。

### ② 人材育成

事務職員等の資質向上を目指し、学外の各種研修会への参加を促進し、事務職員等延べ78名が能力向上セミナー、資格講習会等に参加した（別表8）。学内では、業務改善等に向け階層別等の研修を行った（別表9）。また、戦略的大学連携支援事業として、連携大学間で職員の短期研修派遣を行い、神奈川歯科大学に1名を3日間派遣する一方、同大学から1名の派遣を受け入れ、連携大学間の相互理解を深めた（別表10）。この他、西部地区五大学連携懇話会の職員研修「ファシリテーション基礎研修」等に事務職員5名が参加した（別表11）。

## (5) 国家公務員準拠の給与改定等

第458回理事会（平成25年3月開催）で、国家公務員に準拠し、a)昇格時対応表の改正、b)薬学部6年制に対応の初任給基準表の改正、c)31歳以上39歳未満の者を対象とする昇給抑制分の回復措置を、平成25年度から行うことを決定した。

## (7) 監事、評議員、役職教員の選任等

① 長友泰明監事の平成24年12月7日ご逝去に伴い、後任に第455回理事会（平成24年12月開催）で西方和久氏を選任した。任期は平成25年1月1日から平成26年8月2日まで。また、平成25年3月末退任の松浦正朗評議員（口腔医療センター長）の後任に、第458回理事会（平成25年3月開催）で古賀千尋教授（平成25年4月1日付け口腔医療センター長就任予定）を選任した。任期は平成25年4月1日から平成26年8月2日まで。

② 第457回理事会（平成25年2月開催）で、平成25年4月1日付けで病院長に小島寛教授、学生部長に高橋裕教授、情報図書館長に大関悟教授、口腔・歯学部部長に佐藤博信教授、全身管理・医歯学部部長に池邊哲郎教授、社会医歯学部部長に埴岡隆教授、基礎医歯学部部長に岡部幸司教授を選任した。任期は平成27年3月31日まで。

## 2) 財政基盤の確保

### (1) 教育研究振興基金の充実

教育・研究条件の維持向上を図るため、第3号基本金（教育研究基金）へ2ヶ年で35億円の組入計画を策定し、初年度分18億円を組み入れた。

### (2) 資産運用による収入確保及び経費節減

特定資産等の資金運用による収入は、厳しい経済情勢のなか約7億7千万円となり、前年度を約4千万円上回る5.5%の増収となった。一方、支出については、引き続き、不要不急の支出は厳しく抑制し、効率的な予算執行を行った。

### (3) 外部資金獲得

福岡歯科大学は、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に係る研究費補助金として53,885千円（先端科学研究：19,774千円、再生医学研究：14,337千円、老化制御研究19,774千円）、研究設備整備費補助金として19,866千円（老化制御研究：HS オールインワン蛍光顕微鏡他2件）の助成を受けた。また、私立大学教育研究活性化設備整備事業「患者型ロボットを用いた救急時対応口腔医学実技教育システム」として15,000千円、私立大学等研究設備整備費等補助金「診療参加型臨床実習に係る無線LAN環境の整備」として3,793千円の助成を受けた。

福岡医療短期大学は、大学改革推進等補助金として、産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業 7,773 千円、また、福岡県福祉・介護人材確保臨時対策事業として 2,352 千円の助成を受けた。

科学研究費補助金の獲得状況は、別表 12(大学)、別表 13(短大)のとおり。科研費獲得に向けて、平成 24 年度は申請予定者を対象に、申請のポイント等に関する説明会のほか、学内の科研費獲得 P T 等のメンバーに、3 段階のブラッシュアップを行うなど、精度化された申請書を提出に努めた。その結果、福岡歯科大学では平成 25 年度は前年度に比し、新規採択件数が 1 件増 (21 件から 22 件)、補助金内定額が 107,900 千円 (約 2,000 千円増) となった。

この他の競争的資金の申請件数は 13 件 (前年度 8 件) であった。また、福岡歯科大学は奨学寄附金として 15 件 (6,538 千円)、受託研究として 5 件 8,837 千円) を受け入れた。

#### (4) 税額控除対象法人の証明取得に伴う寄附金の受入れ促進

平成 24 年 6 月に文部科学省から税額控除対象法人の証明を取得し、学園ホームページ、学園広報誌「ニューソフィア」等を通じて積極的な周知を行った。また、同窓会を通じて卒業生に寄附金募集を行ったことなどにより、3 月末までに、202 件 (約 550 万円) の寄附金を受け入れた。

#### (5) 増収に向けた病院の効率化等

- ① 平成 24 年 12 月にインプラントの修理・除去料金を新たに追加した。
- ② 昨年度末から年度当初にかけて診療報酬の研修・改定説明会を実施した。4 月からニチイ学館リーダーが保険審査委員会に毎月オブザーバーとして参加し、算定誤りや算定漏れ等を文書で指摘している。また、カルテチェック責任者が医局員を指導する体制を徹底させた。

#### (6) 事務処理の合理化・効率化

大学教授会及び事務課長会については、タブレット PC を用いて、ペーパーレス化による会議を開始した。

#### (7) エネルギー使用量の削減

冷房期間の電力使用量を抑えるため、施設課で研究棟空調用室外機に散水を行う装置を製作し、冷房効率を高めるなど、全学的に節電に取り組んだ結果、平成 24 年度のエネルギー使用量は前年度比で、電力 1.9% 減、ガス使用量 6.4% 減となった。

### 3) 認証評価への対応

#### (1) 福岡歯科大学

「福岡歯科大学の現状と課題」、「改善報告

書」等を活用し、平成 25 年度に受審する大学基準協会の認証評価用の「点検・評価報告書」等を作成、提出するとともに、日本高等教育評価機構の「自己評価報告書」を作成中である。

#### (2) 医科歯科総合病院

病院機能評価委員会において各領域の項目担当者を決定のうえ各領域の現状と問題点について検討し、認定病院として機能の充実を図った。1 月 22・23 日に本審査を受審し、3 月 11 日付けの中間的な結果報告では改善要望事項として 1 件の指摘を受けたが、その改善取組みについて 3 月末に報告を行った。

#### (3) 福岡医療短期大学

平成 26 年度の認証評価受審に向けて、自己点検・評価委員会を 1 月から 2 回開催し、提出資料・備付資料等の収集担当と報告書執筆担当を決め、平成 25 年 8 月をめぐりに組織的に報告書を取り纏める方針で準備を開始した。

#### (4) 情報公開等の推進

##### ① 教育・財務情報の公開

教育情報の公開については、教育研究活動に関する情報や修学上の情報等についてインターネット上のホームページで積極的に公開した。

財務情報については、学園の利害関係者 (在学生、保護者、教職員等) から請求があった場合、財務課に設置している財務書類及び事業報告書を閲覧に供している。また、学園広報誌「ニューソフィア」に掲載するほか、決算の概要、学校法人会計の特徴および勘定科目等について、ホームページで一般の方にもわかりやすくグラフや解説付きで公開した。

##### ② 学園ホームページの充実等

英文ホームページをリニューアルするとともに英文パンフレットを更新し、海外に向けた本学の教育研究活動に関する情報の充実を図った。

### 4) 安全管理および法令遵守

#### (1) 情報化組織および管理体制の整備・充実

① 情報システム委員会で「全学園的な情報化推進体制の在り方について」を策定した。しかし、当面の課題対応の必要性から、情報システム委員会の下に「教育情報管理運営作業部会」、「医療情報管理運営作業部会」及び「情報基盤管理運営作業部会」を設置し、e-learning 電子教材整備、医療画像管理システムの検討、無線 LAN の拡張・整備等の作業を行った。

② 情報システム委員会において「福岡学園情報セキュリティポリシー」を策定し、大学ホームページに公開した。また、情報端末等の普及による情報の保護管理に係る対策とし

て「福岡歯科大学医科歯科総合病院の保有する個人情報の適切な保護管理に関する指針」、「情報端末等の取り扱いに関するガイドライン」及び「重要情報漏洩等対応マニュアル」を作成し、実施した。

- ③ 平成 24 年度文部科学省補助金（教育基盤設備：診療参加型臨床実習に係る無線 LAN 環境の整備）が認められ、医科歯科総合病院及び本館の無線 LAN 環境を整備・拡充した。

## （2）医療情報システム（HIS）の充実および安定的な運用

医療情報システムの管理体制（マスタ管理、機器管理、システム管理、HIS 運営・教育）の対応窓口と担当業務を決め管理を行ったほか、研修歯科医の ID 登録を実施し、オーダやカルテ入力を可能にした。また、3 階大診療室の歯科診療台更新の後、口腔内撮影デジタルカメラに対応するモニターを設置し、臨床教育や患者説明、エックス線写真閲覧に利用した。この他、全科フィルムレス化に向けた検討を行った。

## （3）セクシュアル・ハラスメント対策等

- ① ハラスメント防止のため、福岡ジェンダー研究所の高木理事及び福岡市人権啓発センターの谷・松永指導員を招聘し、ハラスメント相談員研修会及びハラスメント講演会を開催した。併せて、ハラスメント防止に係る相談体制強化のため、相談員等を 11 月、1 月、2 月にハラスメントに係る学外研修に派遣した。
- ② 学園におけるハラスメント防止体制の強化のため、「ハラスメント防止ガイドライン」を大学及び短大の学生便覧等へ掲載するとともに、ポスター掲示及びパンフレットを配付した。また、大学では助言教員幹事から、短大では学年担任から解説を行った。

## （4）科研費の適正管理

文部科学省が定めた「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づき、12 月に平成 23 年度交付の科学研究費助成事業およびクレストを対象に、本学教員による監査と学園監事による内部監査を実施した。

## 5）その他

### （1）学部学科の名称変更

平成 25 年 4 月から、教育の基本組織である学部学科の名称を「歯学部・歯学科」から「口腔歯学部・口腔歯学科」に変更することとし、第 138 回評議員会及び第 447 回理事会（平成 24 年 3 月開催）並びに第 140 回評議員会及び第 451 回理事会（平成 24 年 7 月開催）等の議を経て 7 月 27 日付けで文部科学省に届出を行った。

### （2）福岡歯科大学創立 40 周年記念シンボルマークの制定

創立 40 周年を学内外にアピールするとともに、大学の更なる発展をシンボライズするため、学生、卒業生、教職員等の学内関係者に公募により、記念シンボルマークを制定した。



### （3）福岡歯科大学創立 40 周年記念事業の実施

10 月 20 日（土）に本学本館 9 階講堂において文部科学省、日本歯科医師会、日本私立大学協会、日本私立歯科大学協会等からのご来賓と本学同窓会役員にご臨席賜り、また多くの在校生・教職員にも出席いただき記念式典を執り行った。式典終了後には、会場を本館 1 階に移して、祝宴を開催した。

この他、本学同窓会・学会の協力を得て、以下の記念事業を実施した。

- ・同窓会主催 特別講演会 [5 月 26 日(土)]
- ・公開講座 [9 月 22 日(土・祝)・23 日(日)]
- ・健康まるごと福岡学園 学園祭「田の歯科祭」  
「福岡歯科大学の各クラブの歴史」など  
[10 月 27 日(土)・28 日(日)]
- ・口腔医学国際シンポジウム [11 月 18 日(日)]
- ・40 年史発行 [12 月 20 日]

### （4）第 23 回日本歯科医学会学術大会（総会）の幹事校に決定

日本歯科医学会および日本歯科医師会が主催となり 4 年ごとに開催される、我が国歯科界最大の学術集会である日本歯科医学会学術大会（総会）の第 23 回大会 [平成 28 (2016) 年開催予定] の幹事校を本学が務めることになった。

### Ⅲ. 財務の概要

#### 1. 資金収支の状況

平成 24 年度資金収支計算書の収入額は 164 億 8,756 万 2 千円で、前年度からの繰越支払資金 5 億 5,081 万 8 千円を加えると、収入合計は 170 億 3,838 万円である。支出額は 163 億 8,607 万 4 千円となり、次年度繰越支払資金は 6 億 5,230 万 6 千円であった。(別表 14)

#### 2. 消費収支の状況

平成 24 年度消費収支計算書の帰属収入合計額は 64 億 8,532 万 1 千円で、小児科、整形外科開設に係る工事費及び機器備品取得費等として第 1 号基本金に 3 億 3,281 万 1 千円、病院建設等資金として第 2 号基本金に 6 億円及び教育研究基金等の第 3 号基本金に 18 億 1,261 万円、合計 27 億 4,542 万 1 千円を組入れたことにより、消費収入の部合計額は 37 億 3,990 万円となった。消費支出合計額は 54 億 7,639 万 5 千円で、差引 17 億 3,649 万 5 千円の当年度消費支出超過となり、前年度からの繰越消費収入超過額 31 億 628 万 3 千円と基本金取崩額 1 億 8,587 万 5 千円を加えた翌年度繰越消費収入超過額は 15 億 5,566 万 3 千円であった。(別表 15)

#### 3. 貸借対照表

平成 24 年度末(平成 25 年 3 月 31 日)現在の貸借対照表資産の部合計額は、583 億 7,939 万円で、負債の部合計額 26 億 4,812 万 4 千円を差引いた正味財産は、557 億 3,126 万 6 千円となり、平成 23 年度に比べ 10 億 892 万 6 千円の増であった。(別表 16)

#### 4. 財務比率表

財務比率表の内、貸借対照表関係の総負債比率は、平成 24 年度末で 4.5%であった。消費収支計算書関係では、人件費比率 51.0%、教育研究経費比率 29.1%、管理経費比率 4.1%であった。(別表 17)

#### 5. 経年比較

資金収支総括表、消費収支総括表、貸借対照表、財務比率表の経年比較(5年間)及び帰属収入・消費支出構成比率表(別表 18)、年度別推移表(別表 19)を添付した。いずれも特に問題なく順調に推移した。



# 別表1 平成24年度研究業績（欧文）一覽

〔福岡歯科大学〕

## 1.著書

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
細胞分子生物学	Advances in Experimental Medicine and Biology: Calcium signaling ;Calcium signaling in osteoclast differentiation and bone resorption.	Kajiya H	Springer			917-932	2012

## 2.総説 (review含む)

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
総合歯科学	The variable etiology of oral pathologic halitosis: a case series	Yoneda M, Suzuki N, Mocado SM, Fujimoto A, Iha K, Koga C, Matsuura M, Hirofuji T	Smile Dental Journal	7	3	32-38	2012
	Mixed red-complex bacterial infection in periodontitis	Suzuki N, Yoneda M, Hirofuji T	International Journal of Dentistry			doi:10.1155/2013/587279	2013
咬合修復学	Review of adhesive techniques used in removable prosthodontic practice.	Shimizu H, Takahashi Y	Journal of Oral Science	54	3	205-211	2012
口腔・顎顔面外科学	Pathophysiology of BRONJ: drug-related osteoclastic disease of the jaw.	Ikebe T	Oral Science International	10	1	1-8	2013
診断・全身管理学	The principal of dynamic contrast enhanced MRI, the method of pharmacokinetic analysis, and its application in the head and neck region	Chikui T, Obara M, Arjan W. Simonetti, Masahiro O, Koga S, Kawano S, Matsuo Y, Kamintani T, Shiraishi T, Kitamoto E, Nakamura K, Yoshiura K	International Journal of Dentistry			doi:10.1155/2012/480659	2012
総合医学	Novel therapeutic strategies targeting innate immune responses and early inflammation after stroke.	Shichita T, Ago T, Kamouchi M, Kitazono T, Yoshimura A, Ooboshi H	Journal of Neurochemistry	123	S2	29-38	2012
	Biological agents in the inflammatory eye disease	Sassa Y, Takeda A, Yoshida S, Kawano Y, Kono T, Ishibashi T	Advances in Medicine and Biology	53		259-266	2012
口腔保健学	Guidelines for smoking cessation (JCS 2010)	CS Joint Working Group/Murohara T, Ahiko T, Doi Y, Hanioka T, Higaki J, Hirano T, Iida M, Ishii M, Kaji M, Kinoshita K, Mochizuki-Kobayashi Y, Nagai A, Saku K, Takahashi Y, Takano T, Yanase M, Yosizawa N, Kamiyama Y, Kawakami M, Kawane H, Matsumura Y, Nakamura M, Nakamura Y, Nakata Y, Shibata T, Sono J, Tsuboi M, Yamato H, Daida H, Ito T, Ogawa H, Shimamoto K	Circulation Journal	76	4	1024-1043	2012
	Tobacco interventions by dentists and dental hygienists	Hanioka T, Ojima M, Kawaguchi Y, Hirata Y, Ogawa H, Mochizuki Y	Japanese Dental Science Review	49	1	47-56	2013
機能生物化学	Antimicrobial mechanism of lantibiotics	Islam MR, Nagao J, Zendo T, Sonomoto K	Biochemical Society Transactions	40	6	1528-1533	2012
口腔医療センター	Mixed red-complex bacterial infection in periodontitis	Suzuki N, Yoneda M, Hirofuji T	International Journal of Dentistry			doi:10.1155/2013/587279	2013

## 3.原著

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
総合歯科学	Awareness among deatal hygienists with regard to treatmento options for halitosis	Yoneda M, Kasio N, Uchida H, Suzuki N, Matuura M, Naito T, Koga C, Yasukouchi H, Matuura M, Hirofuji T	International Journal of Clinical Preventive Dentistry	8	3	123	2012

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
総合歯科学	Effect of S-PRG eluate on biofilm formation and enzyme activity of oral bacteria.	Yoneda M, Suzuki N, Masuo Y, Fujimoto A, Iha K, Yamada K, Iwamoto T, Hirofuji T	International Journal of Dentistry			doi:10.1155	2012
	Tooth loss and risk of hip fracture: a prospective study of male Japanese dentists	Wakai K, Naito M, Naito T, Kojima M, Nakagaki H, Umemura O, Yokota M, Hanada N, Kawamura T	Community Dentistry and Oral Epidemiology			doi:10.1111	2012
口腔治療学	In vitro efficacy of continuous mild heat stress on the antifungal susceptibility of candida albicans biofilm formation	Cho T, Nagao J, Imayoshi R, Kodama J, Morotomi T, Kaminishi H	Biological & Pharmaceutical Bulletin	35	8	1371-1373	2012
	Stabilization of MAPO1 by specific binding with folliculin and AMP-activated protein kinase in O6-methylguanine-induced apoptosis	Sano S, Sakagami R, Sekiguchi M, Hidaka M	Biochemical and Biophysical Research Communications	430	2	810-815	2013
咬合修復学	A multi-centered epidemiological study evaluating the reliability of the treatment difficulty indices developed by the Japan Prosthodontic Society	Kuboki T, Ichikawa T, Baba K, Hideshima M, Sato Y, Wake H, Nagao K, Ueda Y, Ono Y, Tamaki K, Tsuga K, Sakurai K, Sato H, Ishibashi K, Yayani H, Ohyama T, Akagawa Y, Hirai T, Sasaki K, Koyano K	Journal of Prosthodontic Research	56	2	71-86	2012
	Fracture resistance of maxillary complete dentures subjected to long-term water immersion.	Takahashi Y, Yoshida K, Shimizu H	Gerodontology	29	2	e1086-1091	2012
	Bonding of an indirect composite material to a magnetic stainless steel alloy.	Shimizu H, Kawaguchi T, Takahashi K, Takahashi Y	Asian Pacific Journal of Dentistry	12		27-31	2012
	Transparent film formation of DNA/cationic polymer complexes by hydrothermal hot pressing: observation of cell culture on films and biodegradation of films in vivo	Irie A, Ohno J, Hayakawa T, Kido H, Fukushima T	Journal of Hard Tissue Biology	22	1	105-114	2013
	Effects of bisphosphonate administration on peri-implant bone in vitamin D-deficient rats	Wang D, Beppu K, Yamamoto K, Inai T, Kido H	Journal of Hard Tissue Biology	22	1	79-88	2013
	The effect of implant surfaces sputter-coated with hydroxyapatite target	Sakai T, Okamura K, Watazu A, Teraoka K, Kido H	Journal of Hard Tissue Biology	22	1	67-78	2013
	Hyperocclusion up-regulates CCL3 expression in CCL2- and CCR2-deficient mice.	Tsutsumi T, Kajiji H, Goto KT, Takahashi Y, Okabe K	Journal of Dental Research	92	1	65-70	2013
成長発達歯学	Cellular turnover in epithelial rests of Malassez in the periodontal ligament of the mouse molar	Oka K, Morokuma M, Imanaka-Yoshida K, Sawa Y, Isokawa K, Honda MJ	European Journal of Oral Sciences	120	6	484-494	2012
	Preparation of Sr-containing carbonate apatite as a bone substitute and its properties	Sakai A, Ozaki M, A.VALANEZHAD, Ishikawa K, Matsuya S	Dental Materials Journal	31	2	197-205	2012
	The expression of podoplanin and classic cadherins in the mouse brain	Kaji C, Tomooka M, Kato Y, Kojima H, Sawa Y	Journal of Anatomy	220	5	435-446	2012
	Intracellular interaction of EMILIN-1 with fibrillin-1 in human periodontal ligament cells.	Nakatomi Y, Tsuruga E, Yamauchi Y, Kawagoe M, Yamanouchi K, Nakashima K, Sawa Y, Ishikawa H	Orthodontic Waves	71	2	66-69	2012
	Latent transforming growth factor- $\beta$ binding protein 2 negatively regulates coalescence of oxytalan fibers induced by stretching stress.	Tsuruga E, Oka K, Hatakeyama Y, Isokawa K, Sawa Y	Connective Tissue Research	53	6	521-527	2012
	Immunohistochemical examination of novel rat monoclonal antibodies against mouse and human podoplanin.	Kaji C, Tsujimoto Y, Kaneko MK, Kato Y, Sawa Y	Acta Histochemica et Cytochemica	45	4	227-237	2012

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
口腔・顎顔面外科学	Reflection of (18)F-FDG accumulation in the evaluation of the extent of periapical or periodontal inflammation.	Kito S, Koga H, Kodama M, Yamamoto N, Kokuryo S, Habu M, Matsuo K, Nishino T, Kubota K, Muraoka K, Oda M, Wakasugi-Sato N, Matsumoto-Takeda S, Seta Y, Tanaka T, Miyamoto I, Yamashita Y, Kitamura C, Nakashima K, Takahashi T, Tominaga K, Morimoto Y.	Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology	114	6	e62-69	2012
	Magnetic resonance angiography with fresh blood imaging for identification of hemangiomas and blood vessels around hemangiomas in oral and maxillofacial regions.	Oda M, Tanaka T, Kito S, Matsumoto-Takeda S, Otsuka K, Hayashi Y, Wakasugi-Sato N, Yoshioka I, Habu M, Kokuryo S, Kodama M, Nogami S, Miyamoto I, Yamamoto N, Ishikawa A, Zhang M, Matsuo K, Shiiba S, Seta Y, Yamashita Y, Takahashi T, Tominaga K, Morimoto Y.	Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology	113	4	559-566	2012
	STAT3 signal transduction through interleukin-22 in oral squamous cell carcinoma	Naher L, Kiyoshima T, Kobayashi I, Hiroko Wada H, Nagata K, Fujiwara H, Ookuma Y.F, Ozeki S, Nakamura S, Sakai H	International Journal of Oncology	41	5	1577-1586	2012
	General rules for clinical and pathological studies on oral cancer: a synopsis.	Izumo T, Kirita T, Arijji E, Ozeki S, Okada N	Japanese Journal of Clinical Oncology	42	11	1099-1109	2012
	Magnetic resonance angiography using fresh blood imaging in oral and maxillofacial regions.	Oda M, Tanaka T, Kito S, Habu M, Kodama M, Kokuryo S, Miyamoto I, Yoshiga D, Yamauchi K, Nogami S, Wakasugi-Sato N, Matsumoto-Takeda S, Ishikawa A, Nishida I, Saeki K, Morikawa K, Matsuo K, Seta, Yamashita Y, Maki Y, Tominaga K, Morimoto Y	International Journal of Dentistry			Epub	2012
	Selective inhibition of nuclear factor-kB by nuclear factor-kB essential modulator-binding domain peptide suppresses the metastasis of highly metastatic oral squamous cell carcinoma.	Tanaka T, Nakayama H, Yoshitake Y, Irie A, Nagata M, Kawahara K, Takamune Y, Yoshida R, Nakagawa Y, Ogi H, Shinriki S, Ota K, Hiraki A, Ikebe T, Nishimura Y, Shinohara M	Cancer Science	103	3	455-463	2012
	Reduced expression of nuclear factor kB in oral mucosa undergoing preoperative chemoradiotherapy.	Ikebe T, Yamasaki K, Takamune Y, Nakayama H, Shinohara M	Oral Science International	9	2	33-37	2012
	Cutting needle biopsy of recurrent head and neck malignant tumors.	Yamashita Y, Fukuzawa H, Nakayama S, Kimachi K, Hashimoto K, Taniguchi K, Takahashi T, Ikebe T, Ozeki S	The Journal of Fukuoka Dental College	38	1	9-17	2012
	Reactive oxygen species stimulates epithelial mesenchymal transition in normal human epidermal keratinocytes via TGF-beta secretion.	Fukawa T, Kajiyama H, Ozeki S, Ikebe T, Okabe K	Experimental Cell Research	318	15	1926-1932	2012
	Blockade of TRPM8 activity reduces the invasion potential of oral squamous carcinoma cell lines.	Okamoto Y, Ohkubo T, Ikebe T, Yamazaki J	International Journal of Oncology	40	5	1431-1440	2012
	Measurement of vaporization cavity after CO2 laser irradiation on bovine dentin	Ga Y, Okamoto Y, Matsuya S	Pediatric Dental Journal	22	1	27-34	2012
Assessment of Vickers hardness, microstructure, and surface roughness of dentin after initial dissolution by acidulated phosphate-fluoride	Ga Y, Okamoto Y, Matsuya S	Pediatric Dental Journal	22	1	64-71	2012	

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
口腔・顎顔面外科学	The effects of treated time of acidulated phosphate fluoride solutions on enamel erosion	Ga Y, Okamoto Y, Matsuya S	Pediatric Dental Journal	22	1	1-7	2012
	Tapia's syndrome following the orthognathic surgery under general anaesthesia	Ota N, Izumi K, Okamoto Y, Toshitani K, Nakayama K, Fukuzawa H, Ozeki S, Ikebe T	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology	25	1	52-54	2013
総合医学	Peroxiredoxin family proteins are key initiators of post-ischemic inflammation in the brain.	Shichita T, Hasegawa E, Kimura A, Morita R, Sakaguchi R, Takada I, Sekiya T, Ooboshi H, Kitazono T, Yanagawa T, Yoshimura A	Nature Medicine	18	6	911-917	2012
	Microsomal epoxide hydrolase polymorphisms, cigarette smoking, and risk of colorectal cancer: The Fukuoka Colorectal Cancer Study.	Nisa H, Budhathoki S, Morita M, Toyomura K, Nagano J, Ohnaka K, Kono S, Ueki T, Tanaka M, Kakeji Y, Okamura T, Ikejiri K, Futami K, Maekawa T, Yasunami Y, Takenaka K, Ichimiya H, Terasaka R	Molecular Carcinogenesis			Epub	2012
	Low intravascular pressure activates endothelial cell TRPV4 channels, local Ca <sup>2+</sup> events, and IKCa channels, reducing arteriolar tone.	Bagher P, Beleznaï T, Kansui Y, Mitchell R, Garland CJ, Dora KA	Proceedings of the National Academy of Sciences	109	44	18174-18179	2012
	Upregulation of endothelium-derived hyperpolarizing factor compensates for the loss of nitric oxide in mesenteric arteries of Dahl salt-sensitive hypertensive rats.	Goto K, Kansui Y, Oniki H, Ohtsubo T, Matsumura K, Kitazono T	Hypertension Research	35	8	849-854	2012
	Effectiveness of lanthanum carbonate treatment used in combination with other phosphate binders in peritoneal dialysis patients	Yamada S, Yoshida H, Taniguchi M, Tanaka S, Eriguchi M, Nakano T, Tsuruya K, Kitazono T	Internal Medicine	51	16	2097-2104	2012
	Facilitation of sympathetic neurotransmission by phosphatidylinositol-4,5-bisphosphate-dependent regulation of KCNQ channels in rat mesenteric arteries.	Kansui Y, Goto K, Ohtsubo T, Murakami N, Ichishima K, Matsumura K, Kitazono T	Hypertension Research	35	9	909-916	2012
	Association of body mass index with glomerular filtration rate in Japanese: a cross-sectional study in work-site population.	Kansui Y, Ohtsubo T, Goto K, Oniki H, Yamasaki T, Fukuhara M, Ohta Y, Matsumura K	Clinical and Experimental Hypertension	34	2	140-144	2012
	Impact of sleep duration on obesity and the glycemic level in patients with type 2 diabetes mellitus: The Fukuoka Diabetes Registry	Ohkuma T, Fujii H, Iwase M, Kikuchi Y, Ogata S, Idewaki Y, Ide H, Doi Y, Hirakawa Y, Nakamura U, Kitazono T	Diabetes Care	36	3	611-617	2012
	Matrix metalloproteinase-9 gene polymorphisms and chronic kidney disease.	Okada R, Kawai S, Naito M, Hishida A, Hamajima N, Shinchi K, Chowdhury Turin Chowdhury Turin T, Suzuki S, Mantjoro EM, Toyomura K, Arisawa K, Kuriyama N, Hosono S, Mikami H, Kubo M, Tanaka H, Wakai K	American Journal of Nephrology	36	5	444-450	2012
	No effect modification of serum bilirubin or coffee consumption on the association of gamma-glutamyltransferase with glycated hemoglobin in a cross-sectional study of Japanese men and women.	Wang Z, McMonagle C, Yoshimitsu S, Budhathoki S, Morita M, Toyomura K, Ohnaka K, Takayanagi R, Kono S	BMC Endocrine Disorders	23	24	12	2012
	Dietary intakes of retinol, carotenes, vitamin C, and vitamin E and colorectal cancer risk: the Fukuoka colorectal cancer study.	Wang Z, Joshi AM, Ohnaka K, Morita M, Toyomura K, Kono S, Ueki T, Tanaka M, Kakeji Y, Maehara Y, Okamura T, Ikejiri K, Futami K, Maekawa T, Yasunami Y, Takenaka K, Ichimiya H, Terasaka R	Nutrition and Cancer	64	6	798-805	2012
	Neuroprotection after cerebral ischemia.	Namura S, Ooboshi H, Liu J, Yenari MA.	Annals of the New York Academy of Sciences	1278	1	25-32	2013

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
総合医学	The clinical utility of serum tartrate-resistant acid phosphatase 5b in the assessment of bone resorption in patients on peritoneal dialysis	Yamada S, Tsuruya K, Yoshida H, Taniguchi M, Haruyama N, Tanaka S, Eriguchi M, Nakano T, Kitazono T	Clinical Endocrinology			doi:10.1111/ce	2013
	Impact of eating rate on obesity and cardiovascular risk factors according to glucose tolerance status: the Fukuoka Diabetes Registry and the Hisayama Study	Ohkuma T, Fujii H, Iwase M, Kikuchi Y, Ogata S, Idewaki Y, Ide H, Doi Y, Hirakawa Y, Mukai N, Ninomiya T, Uchida K, Nakamura U, Sasaki S, Kiyohara Y, Kitazono T.	Diabetologia	56	1	70-77	2013
	Estrogen receptor- $\beta$ gene polymorphism and colorectal cancer risk: effect modified by body mass index and isoflavone intake.	Honma N, Yamamoto K, Ohnaka K, Morita M, Toyomura K, Kono S, Muramatsu M, Arai T, Ueki T, Tanaka M, Kakeji Y, Maehara Y, Okamura T, Ikejiri K, Futami K, Maekawa T, Yasunami Y, Takenaka K, Ichimiya H, Terasaka R.	International Journal of Cancer	132	4	951-958	2013
口腔保健学	An evolving associative classifier for Incomplete database	Shimada K	Lecture Notes in Artificial Intelligence	7377		136-150	2012
	Impact of various effects of smoking in the mouth on motivating dental patients to quit smoking.	Hanioka T, Tsutsui A, Yamamoto M, Haresaku S, Shimada K, Watanabe T, Matsuo T, Ojima M	International Journal of Statistics in Medical Research	2	1	40-46	2013
機能生物化学	Age-dependent increases in the oxidative damage of DNA, RNA, and their metabolites in normal and senescence-accelerated mice analyzed by LC-MS/MS: urinary 8-oxoguanosine as a novel biomarker of aging	Gan W, Nie B, Shi F, Xu XM, Qian J, Takagi Y, Hayakawa H, Sekiguchi M, Cai JP	Free Radical Biology & Medicine	52	9	1700-1707	2012
	Oxidative damage of DNA, RNA and their metabolites in leukocytes, plasma and urine of Macaca mulatta: 8-oxoguanosine in urine is a useful marker for aging.	Shi F, Nie B, Gan W, Zhou XY, Takagi Y, Hayakawa H, Sekiguchi M, Cai JP	Free Radical Research	46	9	1093-1098	2012
	Greater nucleic acids oxidation in the temporal lobe than the frontal lobe in SAMP8	Shi F, Gan W, Nie B, Takagi Y, Hayakawa H, Sekiguchi M, Cai JP	Neuroreport	23	8	508-512	2012
	Elimination and utilization of oxidized guanine nucleotides in the synthesis of RNA and its precursors	Sekiguchi T, Ito R, Hayakawa H, Sekiguchi M	The Journal of Biological Chemistry			Epub	2013
機能生物化学	Candida albicans Msi3p, a homolog of the Saccharomyces cerevisiae Sse1p of the Hsp70 family, is involved in cell growth and fluconazole tolerance.	Nagao J, Cho T, Uno J, Ueno K, Imayoshi R, Nakayama H, Chibana H, Kaminishi H	FEMS Yeast Research	12	6	728-737	2012
	In vitro efficacy of continuous mild heat stress on the antifungal susceptibility of candida albicans biofilm formation	Cho T, Nagao J, Imayoshi R, Kodama J, Morotomi T, Kaminishi H	Biological & Pharmaceutical Bulletin	35	8	1371-1373	2012
歯科医療工学	Measurement of vaporization cavity after CO <sub>2</sub> laser irradiation on bovine dentin	Ga Y, Okamoto Y, Matsuya S	Pediatric Dental Journal	22	1	27-34	2012
	Assessment of Vickers hardness, microstructure, and surface roughness of dentin after initial dissolution by acidulated phosphate-fluoride	Ga Y, Okamoto Y, Matsuya S	Pediatric Dental Journal	22	1	64-71	2012
	The effects of treated time of acidulated phosphate fluoride solutions on enamel erosion	Ga Y, Okamoto Y, Matsuya S	Pediatric Dental Journal	22	1	1-7	2012
	Preparation and binding study of a complex made of DNA-treated single-walled carbon nanotubes and antibody for specific delivery of a "molecular heater" platform	Kawaguchi M, Yamazaki J, Ohno J, Fukushima T	International Journal of Nanomedicine	7		4363-4371	2012
	Preparation of Sr-containing carbonate apatite as a bone substitute and its properties	Sakai A, Ozaki M, A.VALANEZHAD, Ishikawa K, Matsuya S	Dental Materials Journal	31	2	197-205	2012
	Fabrication of microporous calcite block from calcium hydroxide compact under carbon dioxide atmosphere at high temperature	Otsu A, Tsuru K, Maruta M, Matsuya S, Ishikawa K	Dental Materials Journal	31	4	593-600	2012



所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
歯科医療工学	Fabrication of solid and hollow carbonate apatite microspheres as bone substitutes using calcite microspheres as a precursor	Sunouchi K, Tsuru K, Maruta M, Kawachi G, Matsuya S, Terada Y, Ishikawa K	Dental Materials Journal	31	4	549-557	2012
生体構造学	In vitro efficacy of continuous mild heat stress on the antifungal susceptibility of candida albicans biofilm formation	Cho T, Nagao J, Imayoshi R, Kodama J, Morotomi T, Kaminishi H	Biological & Pharmaceutical Bulletin	35	8	1371-1373	2012
	Preparation and binding study of a complex made of DNA-treated single-walled carbon nanotubes and antibody for specific delivery of a "molecular heater" platform	Kawaguchi M, Yamazaki J, Ohno J, Fukushima T	International Journal of Nanomedicine	7		4363-4371	2012
	Cellular turnover in epithelial rests of Malassez in the periodontal ligament of the mouse molar	Oka K, Morokuma M, Imanaka-Yoshida K, Sawa Y, Isokawa K, Honda MJ	European Journal of Oral Sciences	120	6	484-494	2012
	The expression of podoplanin and classic cadherins in the mouse brain	Kaji C, Tomooka M, Kato Y, Kojima H, Sawa Y	Journal of Anatomy	220	5	435-446	2012
	Intracellular interaction of EMILIN-1 with fibrillin-1 in human periodontal ligament cells.	Nakatomi Y, Tsuruga E, Yamauchi Y, Kawagoe M, Yamanouchi K, Nakashima K, Sawa Y, Ishikawa H	Orthodontic Waves	71	2	66-69	2012
	Latent transforming growth factor- $\beta$ binding protein 2 negatively regulates coalescence of oxytalan fibers induced by stretching stress.	Tsuruga E, Oka K, Hatakeyama Y, Isokawa K, Sawa Y	Connective Tissue Research	53	6	521-527	2012
	Tumor-induced lymphangiogenesis in cervical lymph nodes in oral melanoma-bearing mice	Ozasa R, Ohno J, Iwahashi T, Taniguchi K	Journal of Experimental & Clinical Cancer Research	31		83	2012
	Resurgent-like currents in mouse vas deferens myocytes are mediated by NaV1.6 voltage-gated sodium channels.	Teramoto N, Zhu HL, Yotsu-Yamashita M, Inai T, Cunnane TC	Pflugers Archiv	464	5	493-502	2012
	Immunohistochemical examination of novel rat monoclonal antibodies against mouse and human podoplanin.	Kaji C, Tsujimoto Y, Kaneko MK, Kato Y, Sawa Y	Acta Histochemica et Cytochemica	45	4	227-237	2012
	Chimeric anti-podoplanin antibody suppresses tumor metastasis through neutralization and antibody-dependent cellular cytotoxicity.	Kaneko MK, Kunita A, Abe S, Tsujimoto Y, Fukayama M, Goto K, Sawa Y, Nishioka Y, Kato Y	Cancer Science	103	11	1913-1919	2012
	CLCA splicing isoform associated with adhesion through beta1-integrin and its scaffolding protein: Specific expression in undifferentiated epithelial cells	Yamazaki J, Okamura K, Uehara K, Hatta M	The Journal of Biological Chemistry	288	7	4831-4843	2013
	Transparent film formation of DNA/cationic polymer complexes by hydrothermal hot pressing: observation of cell culture on films and biodegradation of films in vivo	Irie A, Ohno J, Hayakawa T, Kido H, Fukushima T	Journal of Hard Tissue Biology	22	1	105-114	2013
	The effect of implant surfaces sputter-coated with hydroxyapatite target	Sakai T, Okamura K, Watazu A, Teraoka K, Kido H	Journal of Hard Tissue Biology	22	1	67-78	2013
	Effects of bisphosphonate administration on peri-implant bone in vitamin D-deficient rats	Wang D, Beppu K, Yamamoto K, Inai T, Kido H	Journal of Hard Tissue Biology	22	1	79-88	2013
細胞分子生物学	Comparative analyses of the two proliferating cell nuclear antigens from the hyperthermophilic archaeon, Thermococcus kodakarensis	Kuba Y, Ishino S, Yamagami T, Tokuhara M, Kanai T, Fujikane R, Daiyasu H, Atomi H, Ishino Y	Genes to Cells	17	11	923-937	2012
	Blockade of TRPM8 activity reduces the invasion potential of oral squamous carcinoma cell lines.	Okamoto Y, Ohkubo T, Ikebe T, Yamazaki J	International Journal of Oncology	40	5	1431-1440	2012
	Anks4b, a novel target of HNF4 $\alpha$ protein, interacts with GRP78 protein and regulates endoplasmic reticulum stress-induced apoptosis in pancreatic $\beta$ -cells.	Sato Y, Hatta M, Karim Md. Faziul, Sawa T, Wei Fan-Yan, Sato S, Magnuson Mark A., Gonzalez Frank J., Tomizawa K, Akaike T, Yamagata K	The Journal of Biological Chemistry	287	27	23236-23245	2012
	Reactive oxygen species stimulates epithelial mesenchymal transition in normal human epidermal keratinocytes via TGF- $\beta$ secretion.	Fukawa T, Kajiji H, Ozeki S, Ikebe T, Okabe K	Experimental Cell Research	318	15	1926-1932	2012

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
細胞分子生物学	T-type voltage-activated calcium channel Cav3.1, but not Cav3.2, is involved in the inhibition of proliferation and apoptosis in MCF-7 human breast cancer cells	Ohkubo T, Yamazaki J	International Journal of Oncology	41	1	267-275	2012
	The identification of a novel gene, MAPO2, that is involved in the induction of apoptosis triggered by O6-methylguanine	Fujikane R, Sanada M, Sekiguchi M, Hidaka M	PLOS ONE	7	9	e44817	2012
	Preparation and binding study of a complex made of DNA-treated single-walled carbon nanotubes and antibody for specific delivery of a "molecular heater" platform	Kawaguchi M, Yamazaki J, Ohno J, Fukushima T	International Journal of Nanomedicine	7		4363-4371	2012
	Calcium/calmodulin- signaling supports TRPV4 activation in osteoclasts and regulates bone mass.	Masuyama R, Mizuno A, Komori H, Kajiya H, Uekawa A, Kitaura H, Okabe K, Ohyama K, Komori T.	Journal of Bone and Mineral Research	27	8	1708-1721	2012
	Stabilization of MAPO1 by specific binding with folliculin and AMP-activated protein kinase in O6-methylguanine-induced apoptosis	Sano S, Sakagami R, Sekiguchi M, Hidaka M	Biochemical and Biophysical Research Communications	430	2	810-815	2013
	CLCA splicing isoform associated with adhesion through beta1-integrin and its scaffolding protein: Specific expression in undifferentiated epithelial cells	Yamazaki J, Okamura K, Uehara K, Hatta M	The Journal of Biological Chemistry	288	7	4831-4843	2013
	Hyperocclusion up-regulates CCL3 expression in CCL2- and CCR2-deficient mice.	Tsutsumi T, Kajiya H, Goto KT, Takahashi Y, Okabe K	Journal of Dental Research	92	1	65-70	2013
先端科学研究センター	Age-dependent increases in the oxidative damage of DNA, RNA, and their metabolites in normal and senescence-accelerated mice analyzed by LC-MS/MS: urinary 8-oxoguanosine as a novel biomarker of aging	Gan W, Nie B, Shi F, Xu XM, Qian J, Takagi Y, Hayakawa H, Sekiguchi M, Cai JP	Free Radical Biology & Medicine	52	9	1700-1707	2012
	Oxidative damage of DNA, RNA and their metabolites in leukocytes, plasma and urine of Macaca mulatta: 8-oxoguanosine in urine is a useful marker for aging.	Shi F, Nie B, Gan W, Zhou XY, Takagi Y, Hayakawa H, Sekiguchi M, Cai JP	Free Radical Research	46	9	1093-1098	2012
	Greater nucleic acids oxidation in the temporal lobe than the frontal lobe in SAMP8	Shi F, Nie B, Gan W, Takagi Y, Hayakawa H, Sekiguchi M, Cai JP	Neuroreport	23	8	508-512	2012
	Selective inhibition of nuclear factor-kB by nuclear factor-kB essential modulator-binding domain peptide suppresses the metastasis of highly metastatic oral squamous cell carcinoma.	Tanaka T, Nakayama H, Yoshitake Y, Irie A, Nagata M, Kawahara K, Takamune Y, Yoshida R, Nakagawa Y, Ogi H, Shinriki S, Ota K, Hiraki A, Ikebe T, Nishimura Y, Shinohara M	Cancer Science	103	3	455-463	2012
	Candida albicans Msi3p, a homolog of the Saccharomyces cerevisiae Sse1p of the Hsp70 family, is involved in cell growth and fluconazole tolerance.	Nagao J, Cho T, Uno J, Ueno K, Imayoshi R, Nakayama H, Chibana H, Kaminishi H	FEMS Yeast Research	12	6	728-737	2012
	Reduced expression of nuclear factor kB in oral mucosa undergoing preoperative chemoradiotherapy.	Ikebe T, Yamasaki K, Takamune Y, Nakayama H, Shinohara M	Oral Science International	9	2	33-37	2012
	The identification of a novel gene, MAPO2, that is involved in the induction of apoptosis triggered by O6-methylguanine	Fujikane R, Sanada M, Sekiguchi M, Hidaka M	PLOS ONE	7	9	e44817	2012
	Elimination and utilization of oxidized guanine nucleotides in the synthesis of RNA and its precursors	Sekiguchi T, Ito R, Hayakawa H, Sekiguchi M	The Journal of Biological Chemistry			Epub	2013
	Stabilization of MAPO1 by specific binding with folliculin and AMP-activated protein kinase in O6-methylguanine-induced apoptosis	Sano S, Sakagami R, Sekiguchi M, Hidaka M	Biochemical and Biophysical Research Communications	430	2	810-815	2013
再生医学研究センター	Fibronectin adsorption by using 27M Hz quartz-crystal microbalance technique	Hayakawa T, Fukushima T	Journal of Oral Tissue Engineering	10	1	28-33	2012
	Preparation and binding study of a complex made of DNA-treated single-walled carbon nanotubes and antibody for specific delivery of a "molecular heater" platform	Kawaguchi M, Yamazaki J, Ohno J, Fukushima T	International Journal of Nanomedicine	7		4363-4371	2012

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
再生医学研究センター	Transparent film formation of DNA/cationic polymer complexes by hydrothermal hot pressing: observation of cell culture on films and biodegradation of films in vivo	Irie A, Ohno J, Hayakawa T, Kido H, Fukushima T	Journal of Hard Tissue Biology	22	1	105-114	2013
老化制御研究センター	Age-dependent increases in the oxidative damage of DNA, RNA, and their metabolites in normal and senescence-accelerated mice analyzed by LC-MS/MS: urinary 8-oxoguanosine as a novel biomarker of aging	Gan W, Nie B, Shi F, Xu X, Qian J, Takagi Y, Hayakawa H, Sekiguchi M, Cai J	Free Radical Biology & Medicine	52	9	1700-1707	2012
	Oxidative damage of DNA, RNA and their metabolites in leukocytes, plasma and urine of Macaca mulatta: 8-oxoguanosine in urine is a useful marker for aging.	Shi F, Nie B, Gan W, Zhou XY, Takagi Y, Hayakawa H, Sekiguchi M, Cai JP	Free Radical Research	46	9	1093-1098	2012
	Greater nucleic acids oxidation in the temporal lobe than the frontal lobe in SAMP8	Shi F, Nie B, Gan W, Takagi Y, Hayakawa H, Sekiguchi M, Cai JP	Neuroreport	23	8	508-512	2012
	Elimination and utilization of oxidized guanine nucleotides in the synthesis of RNA and its precursors	Sekiguchi T, Ito R, Hayakawa H, Sekiguchi M	The Journal of Biological Chemistry			Epub	2013
口腔医療センター	Cutting needle biopsy of recurrent head and neck malignant tumors.	Yamashita Y, Fukuzawa H, Nakayama S, Kimachi K, Hashimoto K, Taniguchi K, Takahashi T, Ikebe T, Ozeki S	The Journal of Fukuoka Dental College	38	1	9-17	2012
	The variable etiology of oral pathologic halitosis: a case series	Yoneda M, Suzuki N, Mocado SM, Fujimoto A, Iha K, Koga C, Matsuura M, Hirofuji T	Smile Dental Journal	7	3	32-38	2012
	Awareness among dental hygienists with regard to treatment options for halitosis	Yoneda M, Kasio N, Uchida H, Suzuki N, Matuura M, Naito T, Koga C, Yasukouchi H, Matuura M, Hirofuji T	International Journal of Clinical Preventive Dentistry	8	3	123	2012
	Effect of S-PRG eluate on biofilm formation and enzyme activity of oral bacteria.	Yoneda M, Suzuki N, Masuo Y, Fujimoto A, Iha K, Yamada K, Iwamoto T, Hirofuji T	International Journal of Dentistry			Epub	2012

#### 4.症例報告

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
口腔・顎顔面外科学	Multiple complex odontomas and subsequent occurrence of an ossifying fibroma at the same site as the removed odontoma.	Matsuo K, Yamamoto N, Morimoto Y, Yamashita Y, Zhang M, Ishikawa A, Tanaka T, Kito S, Takahashi T.	Journal of Dental Sciences			1-7	2012
総合医学	Remitting seronegative symmetrical synovitis with pitting edema syndrome in a chronic hemodialysis patient	Yamada S, Fuyuno S, Eriguchi M, Tsuruya K, Kitazono T	Case Reports in Medicine			Epub	2012
	Severe metabolic alkalosis, hypokalemia, and respiratory acidosis induced by the Chinese herbal medicine yokukansan in an elderly patient with muscle weakness and drowsiness	Yamada S, Tokumoto M, Kansui Y, Wakisaka Y, Uchizono Y, Tsuruya K, Ooboshi H	CEN Case Reports			Epub	2012

### 〔福岡医療短期大学〕

#### 1.著書

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
保健福祉学科	Movies with Environmental Issues : Chapter 2 Avatar	Ohki M, Takase F, Yoshimura K, Shinohara I, Malcolm S, Yamashita Y, Nagai T, Tanaka M, Miyauchi S, Kobayashi A, Sunagawa N	金星堂			65	2012

#### 2.原著

所属講座	題名	著者名	雑誌名	巻	号	ページ	発行年
歯科衛生学科	Hyperocclusion up-regulates CCL3 expression in CCL2- and CCR2-deficient mice.	Tsutsumi T, Kajiji H, Goto KT, Takahashi Y, Okabe K	Journal of Dental Research	92	1	65-70	2013

## 別表2 先端科学研究センター 公募研究の分担研究者と研究課題

氏名	職名	分担課題
伊東 理世子	生化学・講師	生体から酸化グアニンを排除する酵素系
大久保 つや子	分子機能制御学・准教授	T型カルシウムチャンネル Cav3.1 による腫瘍細胞増殖の制御
岡 暁子	成育小児歯科学・講師	軟口蓋組織に特徴的に発現する遺伝子の探索
脇坂 義信	内科学・助教	脳出血後の脳障害に対するインスリン様成長因子 (IGF-I) の有用性の検討
石井 健士	先端科学研究センター・助教	DNAの酸化損傷を抑制するMTH2蛋白質の機能解析
敦賀 英知	機能構造学・准教授	オキシタラン繊維の形成機構
徳本 正憲	内科学・准教授	血管石灰化退縮治療の模索
林 道夫	生化学・助教	クロマチンリモデリングファクターとゲノムの安定な維持
藤兼 亮輔	分子機能制御学・助教	DNA アルキル化損傷に応答するアポトーシスの分子機構の解析
大城 希美子	歯周病学・助教	歯周病起炎物質による破骨細胞のイオン輸送と分化調節機構の解明
八田 光世	分子機能制御学・講師	上皮組織におけるエピジェネティック・コードの解明

## 別表3 再生医学研究センター 平成23年度研究成果報告会プログラム

平成24年5月31日(木) 13:00-19:50

福岡歯科大学 本館504講義室

13:00-13:10	挨拶
13:10-13:30	「炭酸アパタイト系骨補填材の創製」 松家 茂樹 (歯科医療工学講座生体工学分野)
13:30-13:50	「プロタミンペプチドの抗真菌活性メカニズムと骨再生部位における感染防止への応用」 長 環 (機能生物化学講座感染生物学分野)
13:50-14:10	「サケプロタミン由来抗真菌ペプチドの作用機作の解明」 永尾 潤一 (機能生物化学講座感染生物学分野)
14:10-14:30	「口腔粘膜上皮の細胞間透過性の研究 - claudin-1の機能解析 -」 稲井 哲一郎 (生体構造学講座機能構造学分野)
14:30-14:50	「DNA 分子量の異なる DNA/プロタミン複合体の基礎的性質とGBR用保護膜への応用」 福島 忠男 (再生医学研究センター)
14:50-15:10	「 $\gamma$ PGAを添加したアパタイトセメントの創製」 丸田 道人 (歯科医療工学講座生体工学分野)
15:10-15:30	休憩
15:30-15:50	「ナノカーボン含有ゲルシートによる制御温熱付加」 川口 稔 (歯科医療工学講座材料工学分野)
15:50-16:10	「温熱刺激による骨形成促進効果におけるヒートショック関連分子の役割」 鍛冶屋 浩 (細胞分子生物学講座細胞生理学分野)
16:10-16:30	「再生促進因子(エムドゲイン®ゲル)を応用した根尖部歯周組織再生療法の開発」 阿南 壽 (口腔治療学講座歯科保存学分野)
16:30-16:50	「断髄後の象牙質-歯髄複合体再生療法確立を目的とした歯髄細胞の刺激耐性の解析」 諸富 孝彦 (口腔治療学講座歯科保存学分野)
16:50-17:10	「Bioactive glass(BAG)の生体親和性とSr含有BAGの作製」 泉 利雄 (口腔治療学講座歯科保存学分野)
17:10-17:30	「硬組織再生研究における線維芽細胞の三次元培養法の応用」 山崎 純 (細胞分子生物学講座分子機能制御学分野)
17:30-17:50	休憩
17:50-18:10	「ジルコニアインプラントの開発 -新しい粗面での骨結合の強さ-」 安野 貴美恵・城戸 寛史 (咬合修復学講座口腔インプラント学分野)

18 : 10—18 : 30	「老年性骨粗鬆症におけるインプラント周囲骨の骨密度—インプラント埋入から骨結合達成までの変化—」 別府 健介・城戸 寛史（咬合修復学講座口腔インプラント学分野）
18 : 30—18 : 50	「ビスホスホネート系薬剤の投与がラット顎骨におよぼす影響」 王 東江・山本 勝己（咬合修復学講座口腔インプラント学分野）
18 : 50—19 : 10	「マウス外傷歯モデルにおけるマイクロエックス線 CT を用いた歯根膜再生評価の可能性」 尾崎 正雄（成長発達学講座成育小児歯学分野）
19 : 10—19 : 30	「分泌性ホスホリパーゼ A2 の膵 $\beta$ 細胞機能および再生における役割の解明」 内菌 祐二（総合医学講座内科学分野）
19 : 30—19 : 50	「骨補填材としてのサケ白子由来 DNA/プロタミン複合体の骨芽細胞への分化誘導能」 大野 純（生体構造学講座病態構造学分野）
閉会の挨拶	

別表 4 老化制御研究センター 計画研究の分担研究者と研究課題

所属・職名	研究者名	分 担 課 題
生化学・教授	早川 浩	老化抑制の機構の解明
先端科学研究センター・教授	関口 睦夫	ゲノム安定性と老化の制御
分子機能制御学・教授	日高 真純	細胞死と細胞老化の制御
病態構造学・教授	谷口 邦久	口腔がんの転移抑制
生化学・教授	梅津 桂子	老化過程におけるゲノム再編
口腔外科学・教授	池邊 哲郎	ゲノム酸化と老化の抑制
咬合修復学・教授	佐藤 博信	老化の個体差のメカニズム解明
細胞生理学・教授	岡部 幸司	骨代謝性疾患の病態生理
機能構造学・教授	沢 禎彦	疾患に対する生体のゲノム応答
内科学・教授	大星 博明	脳血管障害の病態と老化
眼科学・教授	川野 庸一	免疫異常の抑制
口腔治療学・教授	坂上 竜資	ゲノム安定性と老化の制御
総合歯科学・教授	廣藤 卓雄	高齢者の口腔疾患の制御
口腔医療センター・教授	米田 雅裕	老化における生体防御



## 別表5 平成24年度地域貢献一覧表

実施事業	内 容
運動場、テニスコート、体育館の開放	地元ソフトボールチーム、野球チーム、子供ラグビークラブを始め早良区壮年ソフトボール大会等、ほぼ毎週運動場、テニスコート、ラグビー場、体育館等体育施設の地域への開放を行った。
公園清掃	田新町が町内行事として月1回実施している田村北公園の清掃に介護老人保健施設等の職員が毎回3名参加し、地域との交流を深めるとともに、清掃後、理学療法士等によるリハビリ体操の指導を行った。
学園祭での交流	田村校区、四箇田団地の子供会で組織するダンスチーム、保育園で指導している地域の太鼓演奏が学園祭にゲスト出演し、イベント会場を盛り上げた。
福岡医療短期大学 教員ボランティア 活動	地域交流並びに地域活性化ボランティア活動の取り組みとして、キャンパス内のさくら館において定期的に行われている地元田新町老人会「親和会」の集いに短大教員並びに専攻科学生が毎月担当を決めて参加し、情報提供を行っている。平成24年度は計12回参加した。

## 別表6 平成24年度公開講座一覧表

名 称	開催日・会場	テーマ・参加人員
出前講座	平成24年4月から平成25年3月まで (市内公民館、小学校等)	市内公民館、小学校などを対象に、本学の教授、准教授等が「心と体・口・歯の健康の話」をテーマに、21箇所の出前講義を行った。
平成24年度福岡歯科大学臨床セミナー	平成24年4月から25年3月まで (福岡歯科大学本館5階504講義室他)	医療関係者を対象に通算24回実施した。 参加者延べ1,334名(臨床研修歯科医を含む)
福岡市民の歯を守る集い	平成24年6月3日 (福岡県歯科医師会館)	福岡市主催。一般対象の相談コーナー(口臭、口腔外科、小児歯科、禁煙)を開設。 参加者354名
福岡歯科大学公開講座	平成24年9月22日～23日 (よみうりプラザ)	「お口とからだのアンチエイジング-キレイになるための美容医療と審美治療-」 1日目 ① 「もっときれいに、若々しく。-口元に見るアンチエイジング-」 ② 「美容医療はお口まわりから」 2日目 ① 「入れ歯でもっと豊かな生活を」 ② 「若返り？インプラントで何が変わるか？」 参加者143名 (1日目：93名、2日目50名)
勝鷹夢祭り	平成24年10月14日 (早良区商店街)	協賛団体として参加 「お口と体の無料健康相談・血流度ストレス度無料測定」 参加者120名
「健康まるごと福岡学園」	平成24年10月27日～28日 (福岡学園)	1. からだの科学展 2. 講演会「その情報あってますか？：健康のための情報活用法」 3. 医科ミニ講座・歯科無料相談 4. 介護施設見学・介護無料相談 5. 短大企画「口から始める介護予防」 各イベント参加者合計2,101人
七隈線沿線3大学合同シンポジウム	平成24年11月3日 (中村学園大学)	メインテーマ「免疫力を高めるための食と健康～ストレスに打ち勝つために～」 第一部講演、第二部公開討論(参加者からの質問に回答する形式)。 本学、福岡大学、中村学園大学合同開催。参加者225名
福岡歯科大学学会総会国際シンポジウム	平成24年11月18日 (福岡歯科大学)	テーマ「Novel Oral Medicine (Stomatology) toward the Integration of Medicine and Dentistry」 4名のシンポジストによる講演 参加者283名

名 称	開催日・会場	テーマ・参加人員
戦略的大学連携支援事業 口腔医学シンポジウム	平成 25 年 1 月 13 日 (北海道経済センター)	テーマ「口腔疾患と全身疾患との関わり」 4名のシンポジストによる講演後、講演者による討論 参加者 177名
再生医学研究センターシンポジウム	平成 25 年 1 月 24 日 (福岡歯科大学 801 講義室)	再生医療の研究を行っている学外シンポジストによる講演 参加者 56名
大学院特別講義	平成 24 年 5 月 9 日 ～平成 25 年 3 月 21 日 (福岡歯科大学 504 講義室他)、全 11 回(内 1 回は再生医学研究センターシンポジウム)	中国医科大学、クレムソン大学、日本大学、タフツ大学、ブリティッシュコロンビア大学、ノースキャロライナ大学、九州歯科大学、東京女子医科大学、ミシガン大学、上海交通大学等の教授らによる講義が行われた。
口腔インプラントセミナー2012 (生涯研修)	平成 24 年 4 月 15 日 ～平成 25 年 3 月 31 日 (福岡歯科大学 501 講義室)	7つのテーマ別講習会 全 7 回 参加者延べ 122 名
口腔インプラント中級講習会 (生涯研修)	平成 24 年 4 月 22 日 ～平成 24 年 8 月 26 日 (口腔医療センター)	テーマ「エビデンスに基づく口腔インプラント治療」 全 5 回シリーズの研修 参加者 19 名
医師と歯科医師のコラボレーションシリーズ (生涯研修)	平成 24 年 9 月 23 日 ～平成 24 年 10 月 21 日 (口腔医療センター)	テーマ「歯科臨床に役立つ内科の知識」 全 3 回シリーズの研修 参加者 30 名
保存・歯周治療の基本と応用 (生涯研修)	平成 25 年 1 月 20 日 ～平成 25 年 3 月 10 日 (口腔医療センター)	実習を多く取り入れた実践的研修 全 3 回シリーズの研修 参加者 10 名
口腔外科・全身管理・画像診断学講習会 (生涯研修)	平成 25 年 1 月 27 日 ～平成 25 年 3 月 24 日 (口腔医療センター)	口腔外科、麻酔科、放射線科の教員による講習会 全 5 回シリーズの講習会 参加者 14 名
口腔インプラント初級講習会 (生涯研修)	平成 25 年 2 月 10 日 ～平成 25 年 2 月 11 日 (口腔医療センター)	実習を多く取り入れた実践的研修 全 2 回シリーズの研修 参加者 14 名
福岡医療短期大学公開講座	平成 24 年 10 月 7 日 (福岡医療短期大学 307 講義室)	テーマ「つなげよう絆、広げよう多職種連携-東日本大震災における医療・介護の支援活動の経験から-」 参加者 127 名

# 別表 7 平成24年度海外研修派遣一覧表

## 第3種海外研修派遣実績一覧表

福岡歯科大学

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
先端科学研究センター	教授	関 口 睦 夫	学会	アメリカ (リーズバーク)	H. 24. 04. 11	H. 24. 04. 15
成長発達歯学	講師	岡 暁 子	学会	韓国 (ソウル)	H. 24. 04. 27	H. 24. 04. 29
成長発達歯学	教授	尾 崎 正 雄	学会	韓国 (ソウル)	H. 24. 04. 27	H. 24. 04. 29
成長発達歯学	大学院生	吉 良 迪 子	学会	韓国 (ソウル)	H. 24. 04. 27	H. 24. 04. 29
総合医学	大学院生	喜 多 岳 志	学会	アメリカ (フロリダ)	H. 24. 05. 04	H. 24. 05. 11
生体構造学	教授	沢 禎 彦	学会	ブラジル (イグアス)	H. 24. 06. 18	H. 24. 06. 26
成長発達歯学	大学院生	加 地 千 晶	学会	ブラジル (イグアス)	H. 24. 06. 18	H. 24. 06. 26
成長発達歯学	大学院生	友 岡 み わ	学会	ブラジル (イグアス)	H. 24. 06. 18	H. 24. 06. 26
咬合修復学	教授	城 戸 寛 史	学会	ベトナム (ホーチミン)	H. 24. 06. 20	H. 24. 06. 25
咬合修復学	大学院生	谷 口 祐 介	学会	ベトナム (ホーチミン)	H. 24. 06. 20	H. 24. 06. 25
咬合修復学	大学院生	鴨 川 和 子	学会	ベトナム (ホーチミン)	H. 24. 06. 20	H. 24. 06. 25
口腔保健学	准教授	嶋 田 香	学会	ドイツ (ベルリン)	H. 24. 07. 15	H. 24. 07. 22
口腔医療センター	教授	松 浦 正 朗	学会	メキシコ (メキシコシティ)	H. 24. 07. 30	H. 24. 08. 06
咬合修復学	助教	森 永 健 三	学会	中国 (香港)	H. 24. 08. 28	H. 24. 09. 02
先端科学研究センター	教授	関 口 睦 夫	打合せ	中国 (北京、杭州)	H. 24. 09. 03	H. 24. 09. 09
機能生物化学	教授	早 川 浩	打合せ	中国 (北京、杭州)	H. 24. 09. 03	H. 24. 09. 09
細胞分子生物学	教授	日 高 真 純	打合せ	中国 (北京、杭州)	H. 24. 09. 05	H. 24. 09. 09
口腔保健学	教授	埴 岡 隆	学会	韓国 (大邱)	H. 24. 09. 19	H. 24. 09. 23
総合医学	助教	寒 水 康 雄	学会	オーストラリア (シドニー)	H. 24. 09. 28	H. 24. 10. 04
口腔治療学	教授	坂 上 竜 資	学会	アメリカ (ロサンゼルス)	H. 24. 09. 28	H. 24. 10. 03
口腔治療学	准教授	永 井 淳	学会	アメリカ (ロサンゼルス)	H. 24. 09. 28	H. 24. 10. 03
総合歯科学	准教授	内 藤 徹	学会	ニュージーランド (オークランド)	H. 24. 09. 29	H. 24. 10. 06
咬合修復学	大学院生	入 江 昭 仁	学会	デンマーク (コペンハーゲン)	H. 24. 10. 09	H. 24. 10. 15
咬合修復学	大学院生	谷 口 祐 介	学会	デンマーク (コペンハーゲン)	H. 24. 10. 09	H. 24. 10. 15
総合医学	教授	大 星 博 明	学会	アメリカ (ニューオーリンズ)	H. 24. 10. 16	H. 24. 10. 21
総合医学	助教	山 田 俊 輔	学会	アメリカ (サンディエゴ)	H. 24. 10. 31	H. 24. 11. 06
	学長	北 村 憲 司	打合せ	中国 (瀋陽)	H. 24. 12. 23	H. 24. 12. 25
口腔医療センター	教授	松 浦 正 朗	打合せ	中国 (瀋陽)	H. 24. 12. 23	H. 24. 12. 25
咬合修復学	教授	高 橋 裕	打合せ	中国 (瀋陽)	H. 24. 12. 23	H. 25. 12. 25
総務課	事務職員	三 木 吉 介	打合せ	中国 (瀋陽)	H. 24. 12. 23	H. 25. 12. 25
総合医学	助教	脇 坂 義 信	学会	アメリカ (ホノルル)	H. 25. 02. 05	H. 25. 02. 10
総合医学	教授	大 星 博 明	学会	アメリカ (ホノルル)	H. 25. 02. 05	H. 25. 02. 11
成長発達歯学	講師	岡 暁 子	その他	韓国 (全州)	H. 25. 02. 12	H. 25. 02. 14
成長発達歯学	大学院生	吉 良 迪 子	その他	韓国 (全州)	H. 25. 02. 12	H. 25. 02. 14
口腔・顎顔面外科学	准教授	山 下 善 弘	学会	オーストリア (バド・ホフガシュタイン)	H. 25. 03. 03	H. 25. 03. 09
口腔・顎顔面外科学	講師	橋 本 憲 一 郎	学会	オーストリア (バド・ホフガシュタイン)	H. 25. 03. 03	H. 25. 03. 10

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
口腔医療センター	教授	勝山英明	学会	アメリカ(タンパ)	H. 25. 03. 04	H. 25. 03. 12
咬合修復学	教授	城戸寛史	学会	アメリカ(タンパ)	H. 25. 03. 06	H. 25. 03. 11
咬合修復学	大学院生	安野貴美恵	学会	アメリカ(タンパ)	H. 25. 03. 06	H. 25. 03. 11
口腔・顎顔面外科学	教授	大関悟	医療支援	ミャンマー(ヤンゴン)	H. 25. 03. 07	H. 25. 03. 15
口腔・顎顔面外科学	助教	岡本愛彦	医療支援	ミャンマー(ヤンゴン)	H. 25. 03. 07	H. 25. 03. 15
診断・全身管理学	講師	野上堅太郎	医療支援	ミャンマー(ヤンゴン)	H. 25. 03. 07	H. 25. 03. 15
看護部	看護師	因美香	医療支援	ミャンマー(ヤンゴン)	H. 25. 03. 07	H. 25. 03. 15
口腔・顎顔面外科学	大学院生	太田信敬	医療支援	ミャンマー(ヤンゴン)	H. 25. 03. 07	H. 25. 03. 15
口腔治療学	講師	諸富孝彦	学会	アメリカ(シアトル)	H. 25. 03. 19	H. 25. 03. 25
総合歯科学	助教	牧野路子	学会	アメリカ(シアトル)	H. 25. 03. 19	H. 25. 03. 25

㊤第3種海外研修派遣：1月以内視察、調査、研究、学会参加等

### 第3種海外研修派遣実績一覧表

福岡医療短期大学

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
歯科衛生学科	教授	升井一朗	引率	アメリカ(ロサンゼルス)	H. 24. 10. 25	H. 24. 11. 04

㊤第3種海外研修派遣：1月以内視察、調査、研究、学会参加等

別表 8 平成24年度 外部研修等受講一覧表

所属	受講日	研 修 名	主 催	場 所	参加者
企画課	5/15	補助金説明会	文部科学省	東京	石橋
	8/30-31	初任者研修会	私立大学協会九州支部	福岡	一月
	11/8-11	第11回日本歯科医学会		大阪	石橋
	11/8-11	第11回日本歯科医学会		大阪	和才
	H25/3/1	平成25年度文科省「知の拠点整備事業」説明会	文部科学省	東京	石橋
	H25/3/22-23	大学等広報ネットワークフォーラム	文部科学省	東京	一月
	H25/3/27	大学設置等に関する事務担当者説明会	文部科学省	東京	石橋
	H25/3/27	大学設置等に関する事務担当者説明会	文部科学省	東京	和才
総務課	4/21	大学評価短期大学認証評価に関する実務研修会		福岡	加藤
	4/23	学術システム研究センター研究員の推薦に関する説明会	日本学術振興会	大阪	加藤
	6/7-8	服務・懲戒実務研修会、勤務時間・休暇関係実務研修会	日本人事行政研究所	東京	赤坂
	6/26	問題社員・余剰人員への法的実務対応	労働調査会	福岡	赤坂
	6/27	平成24年度大学・短期大学評価セミナー	日本高等教育評価機構	東京	加藤
	7/2	変わる労働関係法の最新動向と企業の労務管理のポイント	日本経営協会	福岡	田島
	7/3	科学研究費助成事業実務担当者向け説明会	日本学術振興会	熊本	加藤
	7/3	科学研究費助成事業実務担当者向け説明会	日本学術振興会	熊本	三木
	7/10	平成24年度評価充実協議会プログラム	日本高等教育評価機構	東京	加藤
	7/13	給与実務研修会	日本人事行政研究所	東京	赤坂
	7/19	人権・同和問題企業事業主研修会	人権・同和問題企業研修推進会議	福岡	赤坂
	7/23	科研費採択率を大幅向上をめざす研究計画調書点検・改善のためのスキル要請セミナー		東京	加藤
	8/30-31	初任者研修会	私立大学協会九州支部	福岡	三木
	8/30-31	第3回ODプロジェクト	Q-L i n k s	佐賀	田島
	9/5	人権・同和問題企業指導者研修会	人権・同和問題企業研修推進会議	福岡	香月
	9/6-7	中堅職員研修会	私立大学協会九州支部	福岡	松添
	9/11	平成25年科学研究費助成事業公募要領等説明会	文部科学省	福岡	加藤
	9/19-21	私学スタッフセミナー	私立学校振興共済事業団	神奈川	赤坂
	10/26	業務説明会	私立大学退職金財団	福岡	松添
	11/9-10	第22回日本歯科医学会	日本歯科医学会	大阪	香月
	11/15	労働事件の裁判所における主張立証を見据えた労務管理の実践	労働調査会	福岡	松添
	11/27	福岡地域高年齢者雇用管理セミナー	福岡中央公共職業安定所	福岡	赤坂
	12/4	労働契約法・労働者派遣法・高年齢者雇用法の改正及び安衛法改正案と奇病の対応		北九州	赤坂
	12/7	任用実務研修会	日本人事行政研究所	東京	赤坂
	12/13	平成25年度大学・短期大学機関別認証評価説明会	日本高等教育評価機構	東京	香月
	12/13	平成25年度大学・短期大学機関別認証評価説明会	日本高等教育評価機構	東京	加藤
	H25/1/17	人権同和問題企業セミナー	公共職業安定所	福岡	香月
H25/1/29	パワーハラスメントにならない指導とは	21世紀職業財団	福岡	香月	
H25/2/22	私学マネジメントセミナー	私学事業団	大阪	香月	
H25/2/25	セクハラ・パワハラ防止研修会	福岡県	福岡	松添	



所属	受講日	研修名	主催	場所	参加者
総務課	H25/3/5	私学共済事務担当者連絡会	私学事業団	福岡	松添
	H25/3/5	学校法人の運営等に関する協議会	文部科学省	東京	香月
財務課	6/15. 16. 7/27	第2回ODプロジェクト	Q-Links	福岡	柳
	7/3	科学研究費助成事業実務担当者向け説明会	日本学術振興会	熊本	大西
	7/3	科学研究費助成事業実務担当者向け説明会	日本学術振興会	熊本	今林
	9/6-7	中堅職員研修会	私立大学協会九州支部	福岡	豊福
	9/11	平成25年科学研究費助成事業公募要領等説明会	文部科学省	福岡	今林
	10/5-7	事務局長相当者研修会		大阪	本山
	10/13-14	大学経理部課長相当者研修会	日本私立大学協会	北海道	松添
	12/14	公的研究費の管理及びe-rad更新に係る新システム研修説明会		福岡	柳
施設課	10/17	電気主任技術者実務セミナー	九州電気保安協会	福岡	大神
学務課	6/13	主任・係長の役割と職場を強くする4つの条件	NCBリサーチ&コンサルティング	福岡	牛之濱
	7/5	女性リーダーの役割と意識改革	NCBリサーチ&コンサルティング	福岡	西嶋
	8/3	北部九州キャンパス防犯ネットワークブロック全体会議	福岡県警察本部	福岡	青木
	8/27-28	Q-Lab 第4回CDプロジェクト	Q-Links	佐賀	石田
	10/12-13	第10回四大学歯学部交流会		岩手	車谷
	10/17-19	大学教務部課長相当研修会	私立大学協会	兵庫	車谷
	10/17-19	大学教務部課長相当研修会	私立大学協会	兵庫	檜崎
	10/31	共用試験歯学系OSCE全国説明会		東京	檜崎
	11/16	九州地区私立大学事務連絡協議会		長崎	檜崎
	11/9-11	第11回日本歯科医学会		大阪	田中
	11/29-30	私立歯科大学協会教務研修会	私立歯科大学協会	東京	野方
12/21	障がいのある学生への修学支援に関する研修会	九州大学	福岡	青木	
情報図書館課	4/6-11	新入社員のためのIT研修	富士通ラーニングメディア	福岡	麻生
	6/15. 16. 7/27	第2回ODプロジェクト	Q-Links	福岡	箱田
	8/7-10	図書館等職員著作権実務講習会	文化庁	東京	箱田
	8/27-31	Vmware vSphereシステム管理	NECラーニング	東京	亀井
	8/30-31	第3回ODプロジェクト	Q-Links	佐賀	箱田
	8/30-31	私立大学図書館協会総会・研究大会	私立大学図書館協会	東京	福富
	9/7	私立大学図書館協会九州地区研究会	私立大学図書館協会	熊本	福富
	9/7	私立大学図書館協会九州地区研究会	私立大学図書館協会	熊本	白水
	9/13-14	私立大学図書館協会西地区部会	私立大学図書館協会	鹿児島	白水
	10/19	九州地区医学図書館協議会総会	私立大学図書館協会	福岡	福富
	12/7	SINET説明会	国立情報学研究所	鹿児島	亀井
H25/2/20-22	Linuxセキュリティ研修		東京	亀井	
病院事務課	7/6-7	全国歯科大学病院長会議		長野	島松
	10/25-26	第34回附属病院管理運営事務研修会		東京	田村
	10/25-26	第34回附属病院管理運営事務研修会		東京	原田
	H25/1/29	第46回診療情報管理研究研修会		福岡	田村

別表9 平成24年度学内研修一覧

実施日	研修区分	研修名	内 容	出席者数
5月25日 6月15日 8月13日	階層別	新採用職員研修	「新採用職員への期待」 「大学職員の基礎知識」	4名
5月24日	専門	ハラスメント 講演会	パワーハラスメントに 関する講演等	64名 (教職員)
7月10日 18日	階層別	若手職員研修	「私たちコスト削減への取り組み」	19名
8月21日 22日 28日 9月4日 6日	専門	I C T スキルアップ研修	「Excel研修」 「Powerpoint研修」	5名 2名
8月22日 ～29日	階層別	新採用職員研修 (他課研修)	他部署の業務理解等	2名
11月17日	階層別	主任研修	「職員の資質向上に向けて」	17名
12月20日	階層別	課長補佐研修	「改革を推進する事務組織の あり方及び課長補佐の役割」	7名

別表 1 0 平成24年度 戦略的大学連携支援事業  
短期研修派遣参加者

受講日	研 修 名	主 催	場 所	参加者
8/29-31	戦略的大学連携事業 職員短期研修派遣	神奈川歯科大学	神奈川	池田係員

別表 1 1 平成24年度 西部地区五大学連携懇話会  
研修参加者

受講日	研 修 名	主 催	場 所	参加者
5/18	ファシリテーション基礎研修	九州大学	福岡	柴尾係長
5/18	ファシリテーション基礎研修	九州大学	福岡	田村係長
5/18	ファシリテーション基礎研修	九州大学	福岡	豊田係員
9/7	ビジネスマナー基礎研修	中村学園大学	福岡	池田係員
9/7	ビジネスマナー基礎研修	中村学園大学	福岡	三木係員

# 別表 1 2 平成24年度 科学研究費補助金決定状況

(単位：千円)

【福岡歯科大学】

区 分 種 類	平成 2 3 年 度					平 成 2 4 年 度					前 年 度 比 較 増 減 (H24-H23)					
	申請 件数	申請額	内定 件数	内定額		申請 件数	申請額	内定 件数	内定額		申請 件数	申請額	内定 件数	内定額		
				直接経費	間接経費				直接経費	間接経費				直接経費	間接経費	
新学術領域研究	2	31,250	0	0	0	0	0	0	0	0	-2	-31,250	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特定領域研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
若手研究(A)	1	1,700	0	0	0	0	0	0	0	-1	-1,700	0	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小 計	3	32,950	0	0	0	0	0	0	0	-3	-32,950	0	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
文科省合計	3	32,950	0	0	0	0	0	0	0	-3	-32,950	0	0	0	0	
基盤研究(S)	0	0	0	0	0	1	40,000	0	0	0	1	40,000	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究(A)	0	0	0	0	0	2	58,600	0	0	0	2	58,600	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究(B)	12	86,639	2	11,100	3,330	10	83,097	1	9,000	2,700	-2	-3,542	-1	-2,100	-630	-2,730
	4	10,000	4	10,000	3,000	4	11,500	4	11,500	3,450	0	1,500	0	1,500	450	1,950
基盤研究(C)	39	76,087	9	16,200	4,860	49	91,782	10	17,000	5,100	10	15,695	1	800	240	1,040
	18	13,800	18	13,800	4,140	13	12,400	14	11,500	3,450	-5	-1,400	-4	-2,300	-690	-2,990
挑戦的 萌芽研究	18	37,782	2	2,900	870	19	47,017	2	3,000	900	1	9,235	0	100	30	130
	1	800	1	800	240	3	3,200	3	3,200	960	2	2,400	2	2,400	720	3,120
若手研究(B)	58	119,028	10	15,000	4,500	77	150,026	5	7,500	2,250	19	30,998	-5	-7,500	-2,250	-9,750
	5	4,100	5	4,100	1,230	8	11,400	9	9,400	2,820	3	7,300	4	5,300	1,590	6,890
研究活動 スタート支援	8	10,790	2	2,600	780	13	17,880	1	900	270	5	7,090	-1	-1,700	-510	-2,210
	0	0	0	0	0	2	2,400	2	2,400	720	2	2,400	2	2,400	720	3,120
小 計	135	330,326	25	47,800	14,340	171	488,402	19	37,400	11,220	36	158,076	-6	-10,400	-3,120	-13,520
	28	28,700	28	28,700	8,610	30	40,900	32	38,000	11,400	2	12,200	4	9,300	2,790	12,090
学振合計	163	359,026	53	76,500	22,950	201	529,302	51	75,400	22,620	38	170,276	-2	-1,100	-330	-1,430
新 規	138	363,276	25	47,800	14,340	171	488,402	19	37,400	11,220	33	125,126	-6	-10,400	-3,120	-13,520
	28	28,700	28	28,700	8,610	30	40,900	32	38,000	11,400	2	12,200	4	9,300	2,790	12,090
継 続	28	28,700	28	28,700	8,610	30	40,900	32	38,000	11,400	2	12,200	4	9,300	2,790	12,090
総 計	166	391,976	53	76,500	22,950	201	529,302	51	75,400	22,620	35	137,326	-2	-1,100	-330	-1,430

※内定後の転出、転入実績も含む

# 別表 1 3 平成24年度 科学研究費補助金決定状況

(単位：千円)

区分 種類	平成23年度					平成24年度					前年度比較増減(H24-H23)				
	申請 件数	申請額	内定 件数	内定額		申請 件数	申請額	内定 件数	内定額		申請 件数	申請額	内定 件数	内定額	
				直接経費	間接経費				直接経費	間接経費				直接経費	間接経費
文部科学省	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	文科省合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
新規	1	2,096	0	0	0	1	952	0	0	0	0	0	0	0	0
継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新規	10	19,079	1	1,000	300	10	19,316	2	2,200	660	0	237	1	1,200	360
継続	1	500	1	500	150	2	1,400	2	1,400	420	1	900	1	900	270
新規	4	7,320	0	0	0	6	5,154	1	500	150	2	-2,166	1	500	150
継続	1	1200	1	1,200	360	0	0	0	0	0	-1	-1,200	-1	-1,200	-360
新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新規	15	28,495	1	1,000	300	17	25,422	3	2,700	810	2	-3,073	2	1,700	510
継続	2	1,700	2	1,700	510	2	1,400	2	1,400	420	0	-300	0	-300	-90
学振合計	17	30,195	3	2,700	810	19	26,822	5	4,100	1,230	2	-3,373	2	1,400	420
新規	15	28,495	1	1,000	300	17	25,422	3	2,700	810	2	-3,073	2	1,700	510
継続	2	1,700	2	1,700	510	2	1,400	2	1,400	420	0	-300	0	-300	-90
総合計	17	30,195	3	2,700	810	19	26,822	5	4,100	1,230	2	-3,373	2	1,400	420

## 別表 1 4 資金収支総括表

(単位:千円)

科 目		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	3,574,023	3,562,538	3,419,725	3,350,050	3,022,215
	手 数 料 収 入	22,885	21,209	21,939	21,134	23,777
	寄 附 金 収 入	22,873	23,324	27,137	25,212	40,725
	補 助 金 収 入	517,193	1,220,852	597,966	361,121	385,796
	資 産 運 用 収 入	831,003	902,590	784,801	785,831	820,373
	資 産 売 却 収 入	523,150	537,770	1,532,840	1,478,924	1,066,045
	事 業 収 入	1,711,305	1,755,489	1,859,453	1,909,846	1,999,052
	雑 収 入	151,334	272,742	241,852	168,955	182,464
	借 入 金 等 収 入	0	0	0	0	0
	前 受 金 収 入	771,411	695,539	733,194	540,929	511,488
	そ の 他 の 収 入	730,415	8,960,965	4,983,108	4,870,258	9,381,107
	資金収入調整勘定	△ 1,084,721	△ 1,934,052	△ 1,239,655	△ 1,070,351	△ 945,480
	小 計	7,770,871	16,018,966	12,962,360	12,441,909	16,487,562
	前年度繰越支払資金	1,464,297	942,636	1,254,015	812,457	550,818
	合 計	9,235,168	16,961,602	14,216,375	13,254,366	17,038,380
支出の部	人 件 費 支 出	3,462,344	3,548,121	3,576,403	3,340,714	3,453,023
	教育研究経費支出	1,182,347	1,385,720	1,241,883	1,373,628	1,399,907
	管 理 経 費 支 出	222,030	218,168	208,472	216,146	235,897
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施 設 関 係 支 出	344,049	965,748	125,645	228,176	251,120
	設 備 関 係 支 出	204,787	519,979	264,090	303,949	293,882
	資 産 運 用 支 出	2,843,919	9,722,997	7,521,713	6,901,783	10,912,490
	そ の 他 の 支 出	426,273	406,757	1,071,943	619,244	301,346
	資金支出調整勘定	△ 393,217	△ 1,059,903	△ 606,231	△ 280,092	△ 461,591
	小 計	8,292,532	15,707,587	13,403,918	12,703,548	16,386,074
	次年度繰越支払資金	942,636	1,254,015	812,457	550,818	652,306
	合 計	9,235,168	16,961,602	14,216,375	13,254,366	17,038,380



## 別表 1 5 消費収支総括表

(単位:千円)

科 目		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
消費収入の部	学生生徒等納付金(ア)	3,574,023	3,562,538	3,419,725	3,350,050	3,022,215
	手数料	22,885	21,209	21,939	21,134	23,777
	寄附金(イ)	47,616	35,374	41,623	42,039	51,473
	補助金(ウ)	517,193	1,220,852	597,966	361,121	385,796
	資産運用収入	831,003	902,590	784,801	785,831	820,373
	資産売却差額(エ)	0	0	0	0	0
	うち、有価証券売却差額	0	0	0	0	0
	事業収入	1,711,305	1,755,489	1,859,453	1,909,846	1,999,052
	雑収入	151,334	272,742	241,852	478,151	182,635
	合 計 (オ)	6,855,359	7,770,794	6,967,359	6,948,172	6,485,321
基本	基本金組入額(カ)	△ 1,470,377	△ 1,621,505	△ 2,659,119	△ 2,186,178	△ 2,745,421
	(第1号基本金組入額)	△ 347,227	△ 483,885	△ 531,889	△ 441,659	△ 332,811
	(第2号基本金組入額)	△ 600,000	△ 600,000	△ 600,000	△ 222,009	△ 600,000
	(第3号基本金組入額)	△ 523,150	△ 537,620	△ 1,527,230	△ 1,522,510	△ 1,812,610
	(第4号基本金組入額)	0	0	0	0	0
消費収入(オ-カ)(キ)		5,384,982	6,149,289	4,308,240	4,761,994	3,739,900
消費支出の部	人件費(ク)	3,382,947	3,400,470	3,409,596	3,254,359	3,307,536
	教育研究経費(ケ)	1,639,090	1,828,245	1,736,022	1,875,535	1,887,072
	うち、減価償却	456,535	442,618	498,174	498,425	486,617
	管理経費(コ)	250,208	239,164	237,577	244,931	266,221
	うち、減価償却	28,581	20,205	28,653	28,253	28,497
	借入金等利息(サ)	0	0	0	0	0
	資産処分差額(シ)	9,442	62,843	36,906	6,029	15,302
	うち、有価証券処分差額	0	0	0	0	0
	うち、有価証券評価差額	0	0	0	0	0
	徴収不能引当金繰入額 (又は徴収不能額)(ス)	731	60	4,054	7,252	264
消費支出合計(セ)	5,282,417	5,530,782	5,424,155	5,388,106	5,476,395	
当年度消費収入超過額(キ-セ) (又は△当年度消費支出超過額)		102,565	618,507	△ 1,115,915	△ 626,112	△ 1,736,495
前年度繰越消費収入超過額 (又は△前年度繰越消費支出超過額)		3,886,143	4,131,924	4,777,666	3,662,040	3,106,283
(何) 年度消費支出準備金繰入額		0	0	0	0	0
(何) 年度消費支出準備金取崩額		0	0	0	0	0
基本金取崩額		143,216	27,235	289	70,355	185,875
翌年度繰越消費収入超過額 (又は△翌年度繰越消費支出超過額)		4,131,924	4,777,666	3,662,040	3,106,283	1,555,663
帰属収支差額(オ)-(セ)		1,572,942	2,240,012	1,543,204	1,560,066	1,008,926

別表 1 6 貸借対照表

(単位:千円)

科 目		資 産 の 部				負 債 ・ 基 本 金 及 び 消 費 収 支 差 額 の 部					
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
固定資産(a)		51,568,325	53,305,719	55,335,068	56,452,773	57,267,347	3,697,601	4,180,200	3,584,759	2,669,599	2,648,124
有形固定資産		10,474,492	11,431,306	11,266,188	11,243,389	11,273,345	2,375,203	2,250,043	2,097,127	1,693,087	1,557,038
うち、土地		2,853,955	2,853,955	2,853,955	2,853,955	2,853,955	0	0	0	0	0
うち、建物		4,267,053	5,238,794	5,100,576	5,099,226	5,120,866	0	0	0	0	0
うち、構築物		223,298	209,738	196,521	184,230	172,542	2,372,672	2,225,021	2,058,214	1,663,416	1,517,929
うち、教育研究用機器備品		1,352,565	1,581,296	1,535,472	1,494,563	1,493,114	1,322,398	1,930,157	1,487,632	976,512	1,091,086
その他の固定資産(1)		41,093,833	41,874,413	44,068,880	45,209,384	45,994,002	771,411	712,739	746,094	549,529	497,108
うち、収益事業元入金		0	0	0	0	0	45,247,134	46,841,403	49,500,234	51,616,057	54,175,603
うち、減価償却引当特定資産		8,946,000	8,946,000	8,946,000	8,946,000	8,000,000	20,865,014	21,321,663	21,853,264	22,224,568	22,371,504
流動資産(b)		1,508,334	2,493,550	1,411,965	939,166	1,112,043	7,600,000	8,200,000	8,800,000	9,022,009	9,622,009
うち、現金・預金(c)		942,636	1,254,015	812,457	550,818	652,306	4,131,924	4,777,666	3,662,040	3,106,283	1,555,663
うち、有価証券		198,680	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の		367,018	1,239,535	599,508	388,348	459,737	4,131,924	4,777,666	3,662,040	3,106,283	1,555,663
合計(d)		53,076,659	55,799,269	56,747,033	57,391,939	58,379,390	53,076,659	55,799,269	56,747,033	57,391,939	58,379,390
							減価償却額の累積額の合計額	10,512,547	10,738,993	11,056,286	11,246,386
							基本金未組入額(k)	27,602	78,378	38,069	106,401

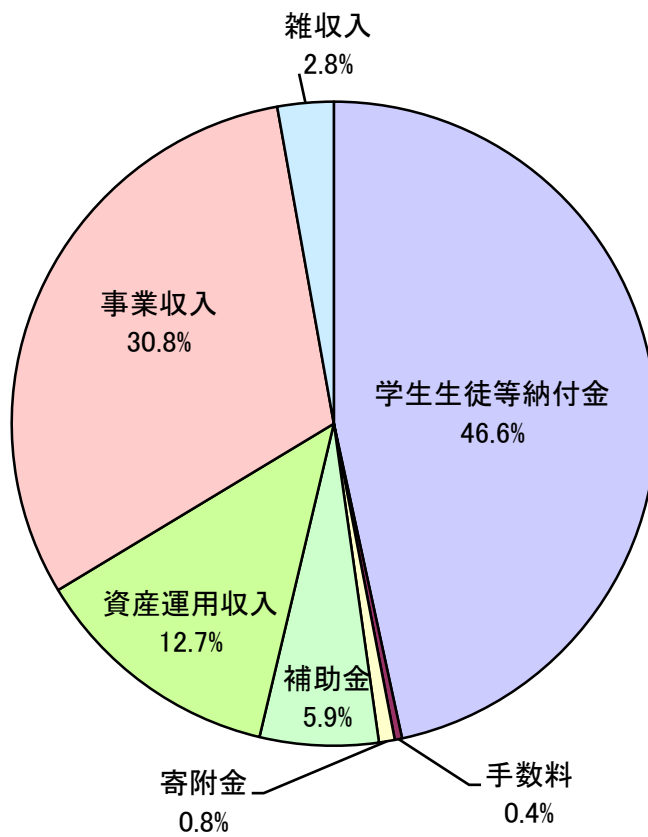
別表 1 7 財務比率表

分類	比 率	算 式 (×100)	評価	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額 (j)}}{\text{総 資 金 (e) + (i) + (j)}}$	△	7.8%	8.6%	6.5%	5.4%	2.7%
	基本金比率	$\frac{\text{基 本 金 (i)}}{\text{基本金要組入額 (i) + (k)}}$	△	99.9%	99.0%	99.8%	99.9%	99.8%
	固定比率	$\frac{\text{固 定 資 産 (a)}}{\text{自 己 資 金 (i) + (j)}}$	▼	104.4%	103.3%	104.1%	103.2%	102.8%
	その他の固定資産構成比率	$\frac{\text{その他の固定資産 (l)}}{\text{総 資 産 (d)}}$	△	77.4%	75.0%	77.7%	78.8%	78.8%
	流動比率	$\frac{\text{流 動 資 産 (b)}}{\text{流 動 負 債 (g)}}$	△	114.1%	129.2%	94.9%	96.2%	101.9%
	前受金保有率	$\frac{\text{現 金 預 金 (c)}}{\text{前 受 金 (h)}}$	△	122.2%	175.9%	108.9%	100.2%	131.2%
	総負債比率	$\frac{\text{総 負 債 (e)}}{\text{総 資 産 (d)}}$	▼	7.0%	7.5%	6.3%	4.7%	4.5%
	負債比率	$\frac{\text{総 負 債 (e)}}{\text{自 己 資 金 (i) + (j)}}$	▼	7.5%	8.1%	6.7%	4.9%	4.8%
	基本金実質組入率	$\frac{\text{自 己 資 金 (i) + (j)}}{\text{基本金要組入額 (i) + (k)}}$	△	109.1%	109.0%	107.2%	105.9%	102.7%
消 費 収 支 計 算 書	人件費比率	$\frac{\text{人 件 費 (ク)} }{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	▼	49.3%	43.8%	48.9%	46.8%	51.0%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費 (ケ)} }{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	△	23.9%	23.5%	24.9%	27.0%	29.1%
	管理経費比率	$\frac{\text{管 理 経 費 (コ)} }{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	▼	3.6%	3.1%	3.4%	3.5%	4.1%
	消費支出比率	$\frac{\text{消 費 支 出 (セ)} }{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	▼	77.1%	71.2%	77.9%	77.5%	84.4%
	【経常経費依存率】	$\frac{\text{消 費 支 出 (セ)} }{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金 (ア)}}$	▼	147.8%	155.2%	158.6%	160.8%	181.2%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金 (ア)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	～	52.1%	45.8%	49.1%	48.2%	46.6%
	寄附金比率	$\frac{\text{寄 附 金 (イ)} }{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	△	0.7%	0.5%	0.6%	0.6%	0.8%
	補助金比率	$\frac{\text{補 助 金 (ウ)} }{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	△	7.5%	15.7%	8.6%	5.2%	5.9%
	基本金組入率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額 (カ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	△	21.4%	20.9%	38.2%	31.5%	42.3%

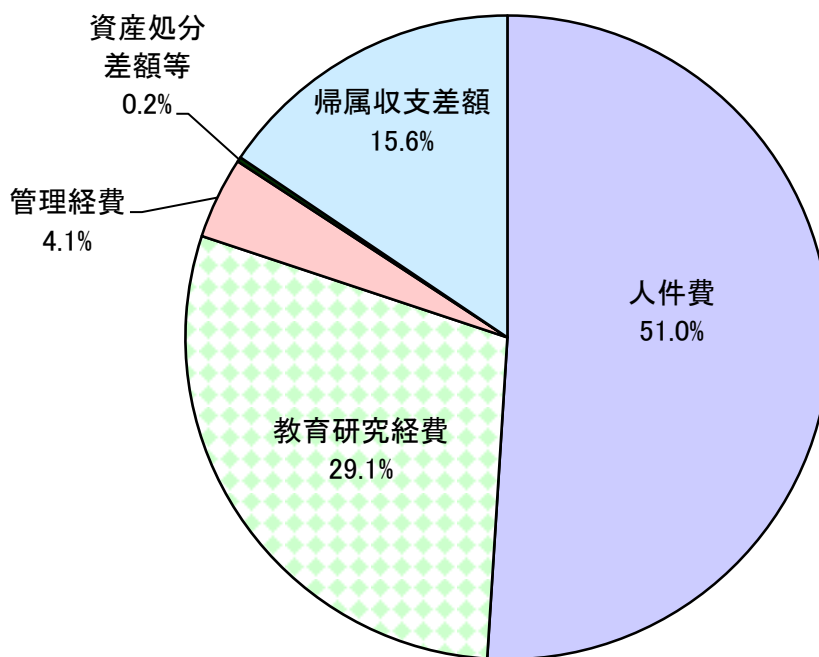
注) 評価：△高い値が良い ▼低い値が良い ～どちらともいえない

別表 18

24年度帰属収入構成比率

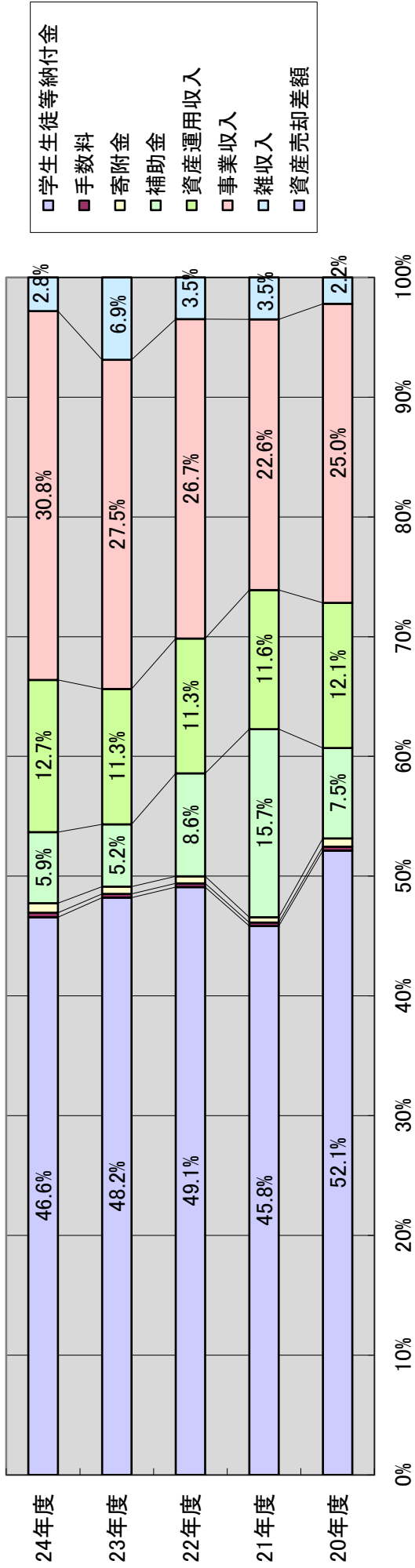


24年度帰属収入に対する消費支出構成比率



別表 19

帰属収入構成比率年度別推移



帰属収入に対する消費支出構成比率年度別推移

